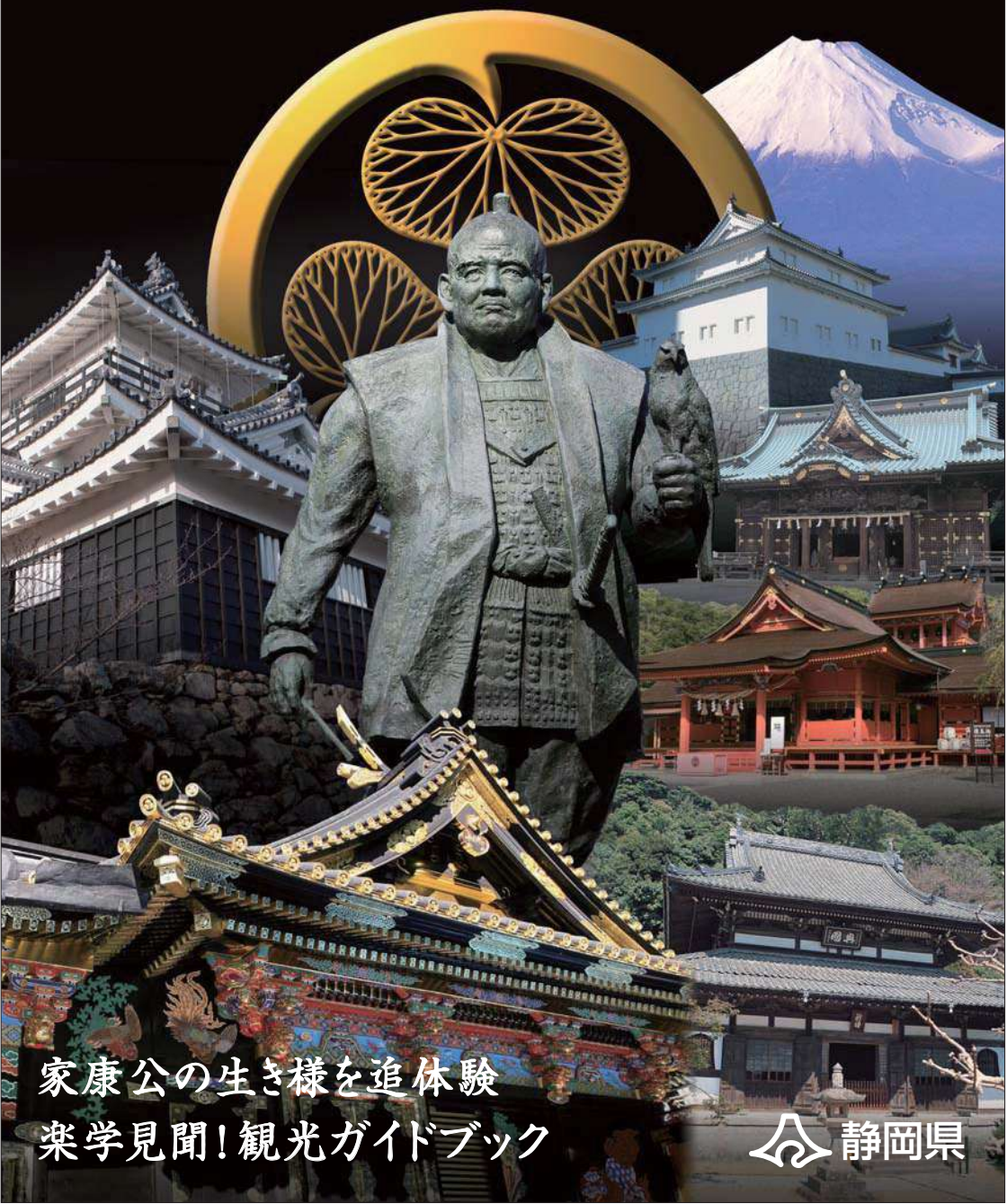



# IEYASU×SHIZUOKA

ふじのくに家康公 観光事典



家康公の生き様を追体験  
楽学見聞! 観光ガイドブック

 静岡県



ようこそ  
ふじのくにへ。  
家康公が  
描いた  
平和のくにへ。

一富士、二鷹、三茄子とあるように、  
富士山という日本一の景観、

鷹という野生の生き物、

茄子に代表される豊かな食材に恵まれている静岡を

徳川家康公はとても好んだといえます。

フロントメッセージ  
キーワードで探る、

家康公とふじのくに

年表

スペシャル対談

〈静岡大学名誉教授 小和田哲男さん

落語家 春風亭昇太さん〉

県全体ガイドマップ

静岡県「中部」編

① 家康公の城づくり町づくり

② 大御所家康公の光

③ 家康公が残した宝

スペシャルインタビュー

〈久能山東照宮 宮司 落合偉洲さん〉

④ 少年竹千代が行く

⑤ 家康公ゆかりの女性たち

⑥ 逸話で辿る家康公の足跡

静岡県「西部」編

① 家康公ゆかりの城めぐり

② 三方ヶ原合戦の足跡

③ 家康公と息子たちゆかりの地

静岡県「東部」編

① 家康公の国づくりと夢の跡

② 家康公の祈りとパワースポット

③ 小田原城攻防ゆかりの城跡

スペシャルインタビュー

〈静岡文化芸術大学准教授 二本松康宏さん〉

ふじのくに家康公エピソード集

スペシャルインタビュー

〈静岡文化芸術大学准教授 磯田道史さん〉

ふじのくに名物いろいろ

ふじのくに便利帳

天下の覇権を握ったとき、家康公は、まず、

李氏朝鮮王国との平和的な国交回復に努力するなど

家康公の対外政策の基軸は経済・文化交流でした。

国内政策でも鉄砲・火薬製造の規制をし、結果的に

世界中でも稀なる軍縮政策を進めました。

江戸時代は、静岡県が目指す

富国有徳の理想郷「ふじのくに」づくりのお手本であり、

その基礎を築いた家康公の功績を

もつと多くの人に知っていただきたいと思えます。

静岡県の各地に残る、家康公の足跡と

功績を辿る旅は、きつと今日を生きる私たちに

困難を乗り越える知恵と、平和への願い、そして、

徳を磨くことの重要さを、改めて伝えてくれることでしょう。

# 01 二富士三鷹

いちふじ いたか  
さんなすび  
三茄子

縁起のよい  
夢を順に並べ  
た、縁起のよい  
言葉。その由来  
は、様々な説があるも



の、徳川家康公の好物を並べた  
という説も。景色では富士山、趣  
味は鷹狩り、食べ物では茄子。天下  
をとった家康公にあやかり、縁起が  
よいことになったと言われている。

# 02 竹千代

徳川家康公の子供時代の名前。

家康公は竹千代と呼ばれていた時  
代も含め、8歳ころから19歳頃ま  
で駿府(今の静岡市)で人質生活  
を送っていた。



静岡駅北口駅前広場  
竹千代君像

# 05 名付け名人

三方ヶ原合戦地の石碑



三方ヶ原の合戦で敗走した家康  
公。「空腹だった家康公にお粥を出  
した農家に、のちに御礼として『小  
粥』という名字を与えた」桶のほ  
ら穴で隠れたところ、馬の白い尾  
が見えていたので、村人がそれを教  
え、武田軍の追手を逃れることが  
できた。その後、恩賞として『白  
尾』の名を与えた」な  
ど、ユニークな名付  
けの逸話が多い。

# 08 お茶

家康公は、井川大日峠「お茶蔵」  
をつくらせ、茶壺を数多く納めて、  
御三家・諸大名に茶を贈るとも  
に自らも愛飲したという。また、茶  
作りにも特例を設けて奨励したた  
め駿府及び周辺の茶が発展した。

# 09 スポーツマン

65〜75歳の大御所と呼ばれた  
時代も、日常の心身鍛練のため鷹  
狩りに出かけたという。また、晩年  
の家康公が鷹狩りの最中、静岡市  
西奈を流れる長尾  
川に水浴し、古泳を従者  
に披露した逸話が残り  
ている。

「徳川家康」と静岡との関わりを探る

キーワードで探る、

# 03

## 【鷹狩り】

駿府城本丸跡 徳川家康公の像



「鷹狩り」とは、鷹などの鳥を使った狩猟のこと。家康公は鷹狩りを生涯の趣味にしていた。里や野山を馬で走りまわる鷹狩りは、足腰が鍛えられることももちろん、地形や田畑、人々の様子などを把握できる、まさに「石二鳥の趣味」。静岡市葵区の「鷹匠」の地名など、家康公と鷹狩りにまつわるエピソードが各地に残っている。

# 04

## 【初勝利の姿】

金陀美具足



久能山東照宮には、家康公が着用した「金陀美具足」が残されている。松平元康と名乗っていた、19歳頃の家康公が桶狭間合戦の前哨戦で勝利した際に着用した具足。美しい金箔押しの花やかな具足をまとった若き家康公のりりしい姿が目につく。

# 06

## 【学問好き】

駿府城に隠居した家康は、時々、各宗派の僧侶を集め、宗論をたたかわせて聴くのを好んだ。また、駿府城内の御文庫には三万冊の図書があったという。

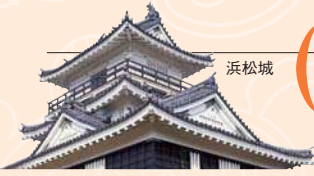


駿府城 翼櫓

# 07

## 【部下づかい達人】

浜松城



家康公は「家臣こそ我が宝」をモットーの一つにしていたという。浜松城時代にも、家臣の諫言を聞き入れたり、若い家臣の話も聞くように重臣に言い聞かせたりしたと伝えられている。

# 10

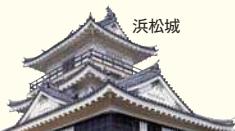
## 【外交手腕】

戦国の世から太平の世へ日本を変えた家康公。その手腕は外交にも発揮された。朝鮮との国交回復に努めたほか、英国人のウィリアム・アダムス(三浦按針)を外交顧問として起用し、諸国の情報を把握した。伊東の船大工を使い、日本初の洋式帆船を建造した。



按針メモリアルパーク

# 家康公とふじのくに



浜松城



「竹千代」は14才で元服するまでの家康公の幼名。8歳から約12年間に駿府で人質生活を送っていた。



臨濟寺

年表から探る

## 竹千代時代

30代

31歳 29歳 28歳 27歳 25歳 23歳 22歳 21歳

1572(元龜三)  
1570(元龜二)  
1569(永祿十二)  
1568(永祿十一)  
1566(永祿九)  
1564(永祿七)  
1563(永祿六)  
1562(永祿五)

12・22  
6  
6・28  
5・17  
12・12  
12・29  
2・28  
7・6  
1・15

三方ヶ原の戦いで信玄に大敗  
浜松城に入る  
姉川の合戦。織田・徳川連合軍が浅井・朝倉連合軍を破る  
今川氏真、掛川城を明け渡す  
遠江侵攻を開始。武田信玄も駿河に侵攻を開始  
松平から徳川に改姓  
一向一揆鎮圧  
家康と改名。三河一向一揆が起こる  
信長と同盟を結ぶ

20代

19歳 17歳 14歳

1558(永祿元)  
1560(永祿三)  
1555(弘治元)

5・19  
5・23  
3  
11・27

岡崎城に入る  
義元、桶狭間で信長の奇襲を受け討死  
初陣。三河寺部城を攻める。元康と改名  
元服し、松平次郎三郎元信と改める

10代

8歳 6歳

1549(天文十八)  
1547(天文十六)

3・10  
8

今川義元の軍師太原崇孚雪斎を大将とする軍勢が安祥城を攻め織田信広を捕らえる。信広と竹千代を人質交換  
父広忠が、家臣に暗殺される  
戸田康光に謀られ尾張・織田信秀のもとへ送られる  
今川氏の人質として駿府に行く途中、

誕生

1歳

1542(天文十二)

12・26

三河岡崎城主松平広忠の長男として誕生。幼名は竹千代。

家康の年齢  
(数え年)

西暦(年号)

家康公のできごと

# 家康公とふじのくに



64歳で征夷大將軍の職を秀忠に譲って以来、「大御所」と呼ばれた。それから亡くなるまで、駿府城で過ごした

## 大御所時代



駿府城 異櫓



29歳～45歳までの17年間に浜松城で過ごした。三方ヶ原の合戦の敗戦もふくめ、家康公にとって試練の時代だった。

## 浜松城時代

70代

75歳

1616 (元和二)

74歳

1615 (元和元)

73歳

1614 (慶長十九)

67歳

1608 (慶長十三)

60代

66歳

1607 (慶長十二)

64歳

1605 (慶長十)

62歳

1603 (慶長八)

50代

59歳

1600 (慶長五)

57歳

1598 (慶長三)

49歳

1590 (天正十八)

47歳

1588 (天正十六)

45歳

1586 (天正十四)

44歳

1585 (天正十三)

43歳

1584 (天正十二)

40代

41歳

1582 (天正十)

40歳

1581 (天正九)

38歳

1579 (天正七)

34歳

1575 (天正三)

33歳

1574 (天正二)

419

久能山に葬られる

417

駿府城で死去

518

大坂城落城。秀頼と淀殿が自害、豊臣氏滅びる

517

大坂夏の陣

1119

大坂冬の陣

311

本丸殿館が完成

713

駿府入城。「大御所」と呼ばれる

217

駿府城の工事開始

416

征夷大將軍職を秀忠に譲る

212

征夷大將軍となる

915

関ヶ原の合戦。家康の東軍が三成の西軍を破る

815

小山から江戸に戻る

818

秀吉死去

811

関東移封を命じられ江戸入城

210

小田原攻めに三万の大軍を率い駿府出発

514

駿府城の天守が完成

124

浜松城から駿府城に移る

719

駿府城の修築に着手

328

小牧・長久手の戦い

62

本能寺の変。信長が明智光秀に殺される

329

信長から駿河一国を与えられる

23

甲斐攻略のために浜松城を出発

322

高天神城を奪還

915

信康、二俣城で切腹

829

築山殿を遠州・富塚で殺害

716

信長、家康に信康・築山殿の処罰を命じる

521

長篠・設楽原の戦い。織田・徳川連合軍が設楽原で武田軍を破る

617

高天神城落城

スペシャル対談 小和田哲男×春風亭昇太

# 徳川家康公 を語る

日本の戦国時代史研究の第一人者、静岡大学名誉教授の小和田哲男さん。静岡市清水区出身で城マニア、歴史ファンとして知られる落語家の春風亭昇太さん。かねてより親交のある二人が、徳川家康公について熱く語り合った。知られざるエピソードや、家康公の足跡をたどる旅の新しい楽しみ方が満載の対談となった。

**小和田** 家康というと、一般的には江戸の人というイメージが強いと思うのですが、実は75年の生涯の内、半分以上は静岡県で過ごしています。8歳から19歳までは、今川家の人質として駿府で過ごし、後に織田信長と手を組み、三河国を統一した後、遠江とらやまを手に入れると浜松に城を築く。ここでおよそ17年間過ごした後、駿河の駿府城へ本城

◎静岡大学名誉教授・文学博士

小和田哲男



を移します。この時、駿河では3、4年しか過ごしていませんが、後に大御所として再び駿河に移り、生涯を終えるまでの約10年間暮らしています。

**昇太** 僕は清水出身なので、家康が人質時代を過ごした清見寺に小学校の頃よく行きました。でも今考えると、世間で言う人質のイメージとは、少し違っていたのではないかと思うんです。織田信長の兄である信広と人質交換してまで、今川家が家康を取り戻そうとしたことや、清見寺というあんな立派なお寺で教育を受けさせたことなど、今川家は家康を非常に重要視していたんじゃないかなと。

**小和田** そうだと思います。私も著書には、わざわざカッコをつけて「人質時代」と表記するようにしているんです。というのも、今川義元の「元」の字をもらって改名していること、義元の姪と結婚したこと、清見寺と臨済寺の住職を兼務していた雪齋和尚、つまり当時を代表する高僧のもとで教育を受けていたことなどを見ても、大事にされていることがわかります。

### ●落語家

# 春風亭昇太

**昇太** 家康の資質を見抜き、最高の教育環境に置いてエリート教育を受けさせていたという義元の功績も大きいですよ。ね。義元は家康のことを片腕のように思っていたのかもしれないね。

**小和田** その証拠に、家康は大御所になってどこにでも城を造れる身分になった時、駿府を選んでる。幼い頃のいい思い出があったからでしょう。実際、家康は隠居する場所として駿府を選んだ理由の一つに、駿府は自分にとって故郷のような所だと語っています。昇太師匠がおっしゃるように、かなり優遇された「人質」だったのでしょうか。



**小和田** 家康が駿府に戻った最大の理由は、立地条件の良さです。大御所になつてからの時代を駿府と江戸の「二元政治体制」と称することもありますが、むしろ二つ頭があるのではなく、家康が本当の頭だったと考えた方が自然でしょう。駿府の家康が頭脳で、江戸の秀忠は手足。だから江戸、駿府間およそ180キロというのはリモートコントロールするにはちょうどいい距離だった。そして何より、国堅固の地であつたということ。家康が將軍職を退いて秀忠に譲つた時といえば、まだ大阪には淀殿と豊臣秀頼がいましたから、それに対する抑えが必要だった。豊臣方ももし、東海道を江戸に向かって攻めてきたとしても、江戸より西に自分がいることで盾になれるという思いがあつたのでしょうか。天竜川、大井川、安倍川が流れて、

背後には富士山、箱根山がそびえる。非常にうまく地形を生かしています。  
**昇太** そういった大きな川を自然の堀として考えれば、静岡県全体を一つの城郭と捉える



— 小和田哲男

川と山。駿府城は、  
自然を生かした  
最強の国堅固の城



静岡県庁別館にある展望ロビーから望む駿府城跡と静岡のまち(静岡市)

こともできますよね。実に壮大な話で、城マニアとしてはたまらない！静岡県庁別館にあ

る展望ロビーから一望すると、駿府城が本当に良い場所にあるということを実感します。

もちろん、食べ物もおいしかったでしょうね。

**小和田** そうですね。家康は駿府を選んだ理由に、米のおいしさも挙げられています。

**昇太** 静岡の米といえば、お酒もおいしいですね！日本酒好きの友人からも、静岡の酒はものすごく評価が高いんです。  
**小和田** 旧葦山町(伊豆の国市)で戦国時代から江戸初期に造られ、徳川家にも献上されていた日本酒を有志の方が復

活させた「江川酒」というお酒も、最近話題になっていてるそうですね。

**昇太** そうなんですか!?!ぜひ飲んでみたいですね。「開運」というお酒は、家康にもゆかりのある高天神城跡の湧き水を使っているそうです。酒好きで城好きの僕にはたまらないエピソードです！ぜひ県外から来られる旅行者の方には、静岡のお刺身と日本酒で酔っ払っていただきたいですね。

**小和田** それから家康は、自分で漢方薬を調合するなど、健康オタクとしても有名だったんですよ。あれだけの天下人になって、いくらでもご馳走を食べられるはずなのに麦飯が大好物だったと言われています。陣中食であり、健康食でもある浜納豆も好んで食べていたようです。

**昇太** 戦で生き残って、食べ物の不摂生で命を縮めていた

大河川を自然の堀として、静岡県全体を一つの城郭と捉えると、実に壮大ですね!



ら意味がないですもんね。戦国武将って、もちろん一人ひとりの資質もありますが、僕は常々ジャンケンみたいなものだと思います。運も強くないと生き残れない。実際家康も、三方ヶ原合戦で敗れているし、本能寺の変でも大脱出劇を繰り広げている。いつ死んでもおかしくないぎりぎりの状況を何度もかいくぐっているわけですから、命ということに対しては人一倍敏感だったのかもしれないね。

**小和田** 静岡県内には、本当にたくさんのお家康ゆかりのスポットがあります。先ほど登場した静岡市の臨濟寺や清見寺をはじめ、袋井市の可睡齋、静岡市の増善寺、その他にも家康に関わりのある女性たちが眠る寺など、寺院巡りも家康旅の楽しみ方の一つです。

**昇太** 家康がこの道を、この階段を歩いたんだと想像するとわくわくします。教科書の中だけで勉強する歴史とは、まったく違った感じ方ができますよね。それから、城マニアのみならず、甲冑好きでもある僕としては、久能山東照宮もおすすめ！東照宮にある博物館には、家康ゆかりの品々をはじめ本物の甲冑や刀剣が収蔵されていて、日本人の美に対するこだわりを感じます。



高天神城跡遠景(掛川市)

ぜひ本物を目にして、当時の人たちの思いを感じてほしいです。

**小和田** その他にも、浜松城



夏目次郎左衛門吉信の石碑(浜松市)

の基となった引間城跡が残る浜松東照宮や、三方ヶ原の犀ヶが崖古戦場など見どころは尽きませんね。特に、三方ヶ原合戦の死者を祀るために建てられた宗円堂、家康の身代わりとして命を落とした夏目次郎左衛

門吉信の石碑など、古戦場跡周辺は興味深いスポットがたくさんあります。**昇太** 僕は高天神城跡を訪れるとキュンとしちゃいます(笑)。徳川、武田両軍の決戦場となり、武田家崩壊のきっかけとなった城でもありますが、この城番である岡部元信の兄と家康は人質時代の親友だったから当然元信の事も知っていたでしょう。家康は高天神城を攻めた時、元信の降参を受け入れようとしますが、信長から許しが下りず、しぶしぶ高天神城を攻め落とします。でもその後、岡部一族を優遇しているところに家康の懐の深さや人間味を感じて、しんみりしてしまふんです。

**小和田** 同じく中部エリアですと、掛川城一带も外せないエリアですよ。周囲には、今川氏真が掛川城に逃げ込んだ際、家康が包囲するために造った陣城跡がいくつか残ります。**昇太** 史跡の善し悪しは決して大きさではないですよ。その裏に秘められた人間ドラマや

背景が、今の時代に生きる我々の心を動かすと思います。**小和田** 家康が天下を取れた最大の要因は、歴史を学び、信長や秀吉という前を走っていた人たちの良い面、悪い面をしっかりと分析し、悪いところは正し、良いところは取り入れようと貪欲に学んだことでしょう。**昇太** 家康って、戦国レースの中で常に上位集団にはいるんだけど、いつも集団の後方にい

家康は、前を走る人の行いを冷静に分析しながら、着実に力を付けた人物ですね。



# コツコツと積み上げる 謙虚な家康の姿勢は 静岡の県民気質に通じる!?

——春風亭昇太



る。良く言えばガツガツしていないというか、自分の持っている力の範囲で、身の丈に合ったことをコツコツと積み上げるタイプ。これって、すごく静岡県民っぽいなって思うんです。静岡の人って全体的に穏やかというか、大らかというか……。

**小和田** 確かに「俺が俺が」という気質はあまりないかもしれないですね(笑)。歴史を学び、先人の心に触れ、実際に現地を歩いて家康の息吹を感じていただきたい。そうすると、歴史がさらにおもしろくなると思います。

**おわだ** てつお

静岡大学名誉教授・文学博士。1944年静岡市生まれ。専門は日本中世史、戦国時代史。研究書のみならず、歴史をわかりやすく、楽しく伝える著書を多数発行。NHK大河ドラマ時代考証の担当歴も多数。

**しゅん** ぶう ていしよつ た

1959年清水市(現・静岡市清水区)生まれ。日本テレビ『笑点』大喜利メンバーとして、幅広い世代から支持を得る。自他共に認める「城マニア」著書に「城あるきのススメ」(小学館)がある。

# る旅

250年以上続く、平和の時代の基礎づくりをした家康公。  
その横顔は、知れば知るほど様々な魅力に満ちている。  
ふじのくに静岡には、そんな家康公にまつわる見どころがいっぱい。  
歴史好き、城好きでなくとも、魅力に溢れている。  
さあ、家康公の旅へ出発しよう。



富士山

## 大御所時代

家康公ゆかりの温泉をはじめ、由緒ある寺社仏閣などパワースポットめぐりに最適。

40ページ

## 静岡県 東部編



みんなで行こう！  
家康を  
めぐる旅



**ビギナーにおすすめ！**

家康公は教科書くらいの知識というビギナーは、駿府城や東照宮など、見どころが多い県中部エリアがおすすめ。家康公ゆかりのスポットも多くアクセスも便利だ。



駿府城跡[中部] P18



久能山東照宮[中部] P22

**家族旅行に  
おすすめ！**



山中城跡[東部] P46



掛川城[西部] P35

子供たちと一緒の旅行なら、お城周辺を公園として整備されているところをピクニックとして訪れてはいかが。春はお弁当を持ってお花見などもおすすめです。

天守を持つ掛川城や浜松城はもちろん、静岡には城マニアのココロをくすぐる山城や城跡がいっぱい。戦国ロマンに思いを馳せながら各地の城跡を訪ね歩いてみよう。

**城好きに  
おすすめ！**



# 家康公をめぐ



家康公の部下の使い方や組織のつくり方は、現代のビジネスにも通用する知恵。数々のピンチを乗り越え、家臣(部下)を宝とした家康公に学ぶことは多い。

**おすすめ!**  
**ビジネス。ハーソソに**



三方ヶ原犀ヶ崖古戦場[西部] P36



富士山本宮浅間大社[東部] P45

## 浜松城時代

戦国時代の幾多の合戦の跡が残る。苦難に満ちた時代を乗り越えた家康公に学ぼう。



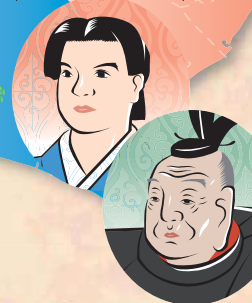
浜松城

## 32ページ

### 静岡県 西部 編

## 竹千代・大御所時代

幼い竹千代が学んだ古刹(こざつ)をはじめ、大御所時代の家康公ゆかりのスポットも隣接している。



掛川城

カップルや女性同士の旅行なら、家康公ゆかりの神社仏閣などを訪ねるパワースポットめぐりに出かけてみよう。家康公ゆかりのグルメも味わってみよう。

**おすすめ!**  
**デートに**



とろろ汁 P56



浜松城[西部] P34

## 16ページ

### 静岡県 中部 編

# 静岡県 中部 編

駿府城下町を悠々さんぽ

家康公の城づくり町づくり ..... 18 19 ページ

MAP 〔静岡市葵区〕 1 ～ 5

駿河湾を望む古刹をめぐる

大御所家康公の光 ..... 20 21 ページ

MAP 〔静岡市清水区〕 6 ～ 7 〔静岡市駿河区〕 8 〔焼津市〕 9

華麗な国宝と歴史ロマンを堪能

家康公が残した宝 ..... 22 23 ページ

MAP 〔静岡市駿河区〕 10 〔静岡市葵区〕 11 ～ 12

県中部エリアは、家康公が竹千代と呼ばれた子供時代を過ごし、後に大御所と呼ばれた晩年期を過ごしたところ。人気スポットそれぞれが比較的近く、見どころも多い。

腕白で勉強好きな横顔に親しみ

少年竹千代が行く ..... 26 27 ページ

MAP 〔静岡市葵区〕 13 ～ 17 〔静岡市清水区〕 18

家康公を愛した人の面影を訪ねて

家康公ゆかりの女性たち ..... 28 29 ページ

MAP 〔静岡市葵区〕 19 ～ 22 〔静岡市清水区〕 23

ふゆさなどに残る逸話の数々

逸話で辿る家康公の足跡 ..... 30 31 ページ

MAP 〔藤枝市〕 24 〔静岡市清水区〕 25 ～ 26 〔静岡市葵区〕 27

〔牧之原市〕 28 〔榛原郡吉田町〕 29





# 家康公の城づくり町づくり

〔静岡市葵区〕

MAP P16・17

- 1 駿府城跡
- 2 鷹匠町
- 3 茶町
- 4 薩摩土手
- 5 静岡浅間神社

大御所政治の舞台となった  
駿府城と城下町の繁栄

静岡市中心部には、家康公が  
築いた城跡や町割が残る。

家康公が駿府城を築いたの  
は駿河をはじめ五カ国の領主  
となった1585年(天正13  
年)、44歳のとき。5年後には、  
秀吉の命により江戸城へ移る  
が、64歳で將軍職を三男秀忠公  
に譲ると大御所として再び駿

## 1 駿府城跡



1



3



2



◆徳川家康公の像  
駿府城本丸跡に建つ、  
駿府大御所時代の家康公。



### 家康公ゆかりの祭り

家康公が建徳寺

に参拝した折に感動

した「稚児舞」が、静岡浅間

神社の例大祭「廿日会祭」

でも奉納されるように

なったとか。また、家康公

は家臣を連れて浅間神社

へ花見見物をしたと言わ

れ、「大御所花見行列」と

して静岡まつりで再現さ

れている。

府へ戻り城づくりに着手。ところが、天守は完成して半年ほどで焼失。城内では不審火が多く、家康公はタバコが原因だとして「喫煙禁止令」を出したほどだ。現在、当時の堀とともに復元された隅櫓<sup>すみぐら</sup>などを見ることができると言われた町人が住む町方が整備され、今の市街地の原型となった。町名には当時のままの名前が多く残っている。例えば、両替町は家康公が京都伏見銀座を駿府に移し、金銀の両替屋があった町。茶町や鷹匠<sup>たかやま</sup>町など家康公の趣味に通じる人々が住む町もあり、駿府の町はおおいに繁栄したとか。

町の安全性にも配慮した家康公。安倍川の洪水から守るため薩摩土手を築き、駿府用水と呼ばれる水路も整備、一部は防火用水や農業用水として活用された。



- ④
- ①異櫓(たつみやぐら):駿府城二ノ丸の東南角、巽(辰巳)の方角に位置した三層二重の隅櫓は、1989年(平成元年)に復元された。
  - ②東御門:駿府城への主要な出入り口で、二ノ丸堀に架かる東御門橋と高麗門、櫓門、多門櫓で構成される樹形門。石落しや鉄砲狭間など、堅固な造りになっている。1996年(平成8年)に復元。
  - ③櫓門北面:東御門を構成する櫓門の正面。土塀に、鉄砲狭間(つっぽうざま)・矢狭間(やざま)などが見られる。
  - ④紅葉山庭園:駿河の国の名勝を織り込んだ、四季折々に美しい庭園。家康公お手植えのみかんもある。

## 2 鷹匠町

鷹狩りが趣味だった家康公。家康公の鷹狩りに同行した鷹匠<sup>たかやま</sup>たちが住む町として武家屋敷地に設けられた。

静岡市葵区鷹匠  
☎054-251-5880  
(静岡観光コンベンション協会)



## 3 茶町

茶の湯に親しんだ家康公が安倍川上流で栽培された茶を扱う商人の町として誕生させ、江戸時代から製茶問屋が軒を連ねた。

静岡市葵区茶町  
☎054-251-5880  
(静岡観光コンベンション協会)



## 4 薩摩土手

家康が駿府拡張に伴い築いた長さ4.3kmに及ぶ堤。薩摩藩の島津氏が運んだ石材により築かれたと伝えられている。

静岡市葵区井宮  
☎054-251-5880  
(静岡観光コンベンション協会)



## 5 静岡浅間神社

静岡市葵区宮ヶ崎町102-1  
☎054-245-1820



大御所花見行列

## ◆静岡まつり

静岡の春を彩る市民の祭り。華やかな「大御所花見行列」など様々な催しが繰り広げられる。4月の第1土・日曜を中心に開催。

静岡まつり実行委員会事務局  
(静岡市観光・シティプロモーション課)  
☎054-221-0182

# 大御所 家康公の光

〔静岡市清水区〕

6 清見寺

7 清水港

〔静岡市駿河区〕

8 丸子宿

〔焼津市〕

9 石脇浅間神社の旗掛石

家康公の手腕が光る  
外交政策と国内政策

家康公が生涯のおよそ三分の一を過ごしたという駿府（静岡市）には、二百六十年余に渡る徳川の時代の礎を築いた家康公の足跡が数多く残る。

幼少時代から関わりの深い清見寺は、家康公の外交舞台の一つ。1607年（慶長12年）、関



6 清見寺



① 清見寺本堂:家康公の師である臨濟寺の雪斎和尚が再興した縁で、本堂の裏には家康公手習の間がある。大御所時代にもたびたび訪れたと伝えられている。

② 清見寺名勝庭園:家康公の指示で配したという「五木三石の庭」。お手接ぎの臥竜梅、柿などの樹木と亀石、虎石などがあ

静岡市清水区興津清見寺町418-1  
☎054-369-0028  
拝観時間/8:30~16:30  
拝観料/大人300円、中高生200円、小学生100円



家康公も味わった  
朝比奈ちまき



朝比奈ちまき保存会  
鈴木 秀樹会長

藤枝市岡部町に伝わる「朝比奈ちまき」。この一帯を治めていたという朝比奈一族の所蔵伝録によると「出陣にちまきを持参して食したところ、体力気力が充実して戦勝した。これを家康公が聞きつけ、家臣の彦坂九兵衛に命じて献上させた」という。「樁の木を燃やした灰汁にもち米を一晚漬けてから蒸し、ついたもちを笹の葉などで包みます。とても手間がかかりますが、腹もちがよく、日にちがたっても不思議に柔らかいのが特徴です。

係が冷え込んでいた朝鮮国との国交正常化に向け、四六七人の朝鮮通信使の来日を駿府で実現させた。そのときの通信使宿舎が清見寺だ。

水運整備にも力を注いだ家康公。戦国時代から軍事上、重要な湊だった清水湊(港)を海上交通の要衝と考え、巴川の河口を利用して港町を造った。駿府城と清水湊を結ぶ巴川水路を掘削し、石材など多くの物資が巴川を上り運ばれたという。

1615年(元和元年)の大坂夏の陣では、徳川軍の食料輸送などに協力した廻船問屋に営業の独占権を与え、湊の発展にも尽くした。

天下統一には陸の交通網の整備が不可欠と考えた家康公は、1601年(慶長6年)に江戸から京までの東海道の宿場を定め、伝馬制をした。東海道五十三次のうち静岡県下には22宿ある。



## 7 清水港

海上交通の要衝として発展した清水湊(港)は、東西の物資が盛んに往来し、富士川を通じて送られた物資を江戸へ運ぶ拠点になった。多くの廻船問屋が軒を連ねていたという。

静岡市清水区入船町



## 8 丸子宿

鎌倉時代から交通の要衝として重要視されてきた歴史ある宿場。日本橋を起点に品川から数えて20番目にあたる。駿府城築城にあたり、丸子など近在からも石を集めたという。丸子宿はとろろで知られるが、家康公もとろろや麦飯が好物の一つだったという。

静岡市駿河区

☎054-251-5880(静岡観光コンベンション協会)

## 9 石脇浅間神社の旗掛石

家康公が若き頃、武田軍の花沢城などを攻めたときに家臣の原川新三郎の家を本陣として石に旗をかけ勝利を祈ったとされる。大御所時代には鷹狩りで訪れ、石に旗を立て、その力をしめたという。

焼津市石脇705

☎054-626-6266(焼津市観光協会)



## ◆朝比奈ちまき保存会

伝統の食べ物を後世に伝えたいと2011年(平成23年)に発足。地域の小学校でのちまき作り体験のほか、地域のイベントではちまきの販売を行っている。

藤枝市岡部町  
朝比奈地区



文献を参考に作られた「朝比奈ちまき」(写真右)昔は「ちまきの井戸」と呼ばれる井戸の水を使ったそうで、井戸が現在も残っている。(写真左)

京都のちまきと並ぶ、二大献上ちまきの朝比奈ちまきを、もっとたくさんの人に知っていただきたいです。ね」と朝比奈ちまき保存会の鈴木会長。イベントなどで配ったところ、大好評だったとか。

# 家康公が残した宝

〔静岡市駿河区〕

10 久能山東照宮

〔静岡市葵区〕

11 静岡市文化財資料館

12 井川大日峠お茶蔵

MAP P16-17

家康公の偉大さを物語る  
建物や品々

家康公を祀る東照宮がある場所として知られる久能山。古くは、天台宗久能寺（現在の鉄舟寺）と呼ばれた山岳信仰の寺があった。今川氏を滅ぼした武田信玄は、寺を移転させて「久能山城」を築城するが、武田氏滅亡とともに落城。その後、大御所家康公が堅固なる

10 久能山東照宮



家康公はお茶が好き

家康公はお茶を好

み、駿府城下町の中

に茶の取引を専門とする町

（茶町）を誕生させた。現在

もその地名はそのまま残っ

ている。

また、安倍川上流地域で

作られる安倍茶は御用茶と

して献上された。かつて井川

大日峠には献上茶を保存す

るお茶壺屋敷があり、「山

口・大般若・志賀・捨子・金

森・一文字・玉虫・楊柳・清

香」などの呼び名で知られ

た名器の茶壺にお茶を詰め

て厳重に警護し保存されて

いた。標高1200mの山

奥に貯蔵した理由は、冷蔵

庫のない時代のために自然

の冷蔵庫として最適だった

からだとか。大日峠のお茶

壺屋敷からは、「駿府のお茶

壺道中」と呼んで御茶道師

山城として重要な拠点にしたという。

家康公は遺言で「遺骸は久能山に埋葬するよう」と家臣に託し、元和2年(1616)4月17日に、駿府城内で75歳の生涯を閉じると、その日のうちに久能山へ埋葬された。同年5月には、二代將軍秀忠公の命によって、徳川頼宣公が総奉行となり中井大和守正清を棟梁として久能山東照宮が着工され、翌年12月には豪華絢爛な東照宮が完成した。

山の下にある石鳥居から数えて1159段の石段が続く。極彩色に彩られた楼門をくぐり、さらに奥に進むとひと際きらびやかな社殿がある。その奥には家康公を祀る神廟がある。家康公ゆかりの品々は、東照宮博物館のほか静岡市文化財資料館にも展示され、「勝ぶくべ」や「軍配」を見ることが



### 11 静岡市文化財資料館

静岡浅間(せんげん)神社境内の湖畔にあり、静岡浅間神社所蔵の神書類などの展示をしている資料館。館内には家康公鷹狩立像がある。

静岡市葵区宮ヶ崎町102-1 静岡浅間神社内  
☎054-245-3500  
開館時間/9:00~16:30  
休館日/月曜日・祝日の翌日・年末年始  
入館料/200円(中学生以下は無料)



①久能山東照宮社殿:当時の建築技術と芸術の粋を集めた「権現造(ごんげんづくり)」の社殿は、日光東照宮など全国にある東照宮の原型。平成22年(2010)に本殿・石の間・拝殿が国宝に指定された。

②神厩(しんぎゆう):家康公の愛馬を飼育するために建てられた厩舎。名工、左甚五郎の手による愛馬そっくりの彫刻馬がある。

③神廟:家康公の遺骸が埋葬された場所に建つ。三代將軍徳川家光公によって、当初の祠のかわりに高さ5.5m、まわり8mの石塔が建てられた。

④表参道石段:山下にある石鳥居から数えて1159段あり、ここからの眺望はすばらしい。

静岡市駿河区根古屋390  
☎054-237-2438  
拝観料/大人500円・小・中学生200円  
参拝時間/9:00~17:00(10~3月は16:00まで)  
※博物館は2013年9月末まで休館  
参拝ルート/久能山下から徒歩または日本平山頂より日本平ロープウェイ(5分)を利用



### ◆駿府本山茶まつり 「駿府お茶壺道中」

毎年10月に新茶の時期に茶壺に詰めてお茶蔵で保管された茶葉は、秋に行われるお茶壺道中行列で蔵出しされ、茶壺を籠に乗せて、時代衣装を身にまとった人々によって久能山東照宮まで運ばれる。

駿府お茶壺道中 開催場所/静岡市葵区井川~市街地~駿河区久能山東照宮  
☎054-254-2111(静岡市役所)  
開催時期/10月下旬



### 12 井川大日峠お茶蔵

江戸時代のお茶蔵を復元したもので静岡市葵区井川3033番地井川大日峠 ピクニック広場

によりお茶壺が大切に運ばれ、「口切りの儀式」として御茶壺が開封され吟味された後、駿府城に運ばれて家康公が飲用したという。平成14年(2002)に井川大日峠の広場にお茶蔵が復元されている。

## 落合偉洲 宮司が語る

# 家康公と久能山東照宮

徳川家康公を東照大神として祀る久能山東照宮。

平成27年(2015)、家康公が亡くなり四百年という節目の年を迎えるにあたって、七年の歳月をかけて豪華絢爛な社殿などが蘇った。

あてやかな社殿の奥には、静寂な雰囲気の中、家康公が眠る神廟がある。

戦国時代に終止符を打ち、天下泰平の世を目指した家康公。久能山東照宮で、その人物像の一端にふれてみたい。

## 久能山東照宮に隠された家康公からのメッセージ

### 社殿の奥には 家康公が眠る「神廟」

「遺骸は久能山に埋葬すること」という家康公の遺命によると、元和2年(1616)に亡くなると直ちに久能山東照宮に埋葬されました。家康公の遺骸が埋葬された場所に立つ神廟は、遺命に従い西向きに建てられています。

翌年に御霊は分霊され、日光東照宮にも祀られました。日本

中に東照宮というのは数多くありますが、家康公を最初に祀った原点ともいべき場所が久能山東照宮なのです。

### 平和への思いを託す

拝殿の正面上部(墓股)には、三つの彫刻が施されており、中央が有名な「司馬温公の瓶割り」の図です。司馬温公が

子どもの頃、水瓶に落ちた友達を助けるために大切な水瓶

を割って救い出します。その話を聞いた父親は水瓶を失ったことより友達を命を救ったことを褒めたという逸話を題材にしたものです。“生命の尊さが込められています”が、家康公の最も大切なメッセージと言えますね。国民一人ひとりの命を大切にして平和な国を築くという考えを表しています。

社殿の周囲を囲む透塀の腰に多く彫られた動物と果実、



## 三つの彫刻と洋時計

### ① 司馬温公の瓶割り



### ② 三賢人と瓢箪の水



家康公が眠る神廟

鳥と花や穀物などの彫刻は、実り豊かで平和なイメージにつながっています。

### 教育の大切さを刻む

戦に勝つても人々が欲望のままに動いては世の中が乱れることを学び、教育の必要性を重んじたという家康公ですが、それは右側の「三賢人」の彫刻に語られています。実際に『群書治要』という、大名のために政治倫理の handbook になる書

物の刊行を命じています。同時に、書物を刷るために金属活字を作らせています。

左側の「瓢箪から駒」は、あり得ない事が起こる「現代風に言えば「想定外」ということから、常に実直に謙虚にということかえですね。

### 洋時計に見る外交政策

久能山東照宮には家康公をはじめ、徳川家ゆかりの品々も多く残されています。その一つがスペイン国王より家康公へ寄贈された「洋時計」です。日本最古の西洋時計であるのももちろんのこと、世界的に見ても当時の部品が残る唯一の時計です。家康公の手元に五年ほど保管され、その後二代将軍秀忠公が久能山へ持ってきて使われることなく保管されたため、部品が交換されなかったのが幸いでした。

家康公は海外の国々と友好的な関係を築き、戦いを避け

て交易を主とした平和外交を目指していました。時計を献上されるゆえんとなったスペインとのできごとともそうです。

### 武器を平和利用に変えた

家康公の時代、戦は銃が主でしたが、鉄砲や火薬の製造を規制したのも平和な国づくりの一環です。駿府城では、家康公が

花火を楽しんだという話が伝わっています。火薬を兵器ではなく平和なものへと転換させたのは大きな功績でしょう。久能山東照宮にも火縄銃が残っていますが、それはむしろ「平和」の象徴でもあると思います。



火縄銃

※スペイン領フイリピン<sup>①</sup>の臨時総督であったドン・ロドリゴを乗せた船がメキシコに帰国する途中で難破し日本に漂着。大御所家康公は三浦按針<sup>②</sup>とウイリアム・アダムス<sup>③</sup>が造船した120トンの洋式船を提供し、翌年にドン・ロドリゴほか救助された乗組員を外交交渉するための日本人とともにメキシコまで送り届けた。



③ 瓢箪から駒



④ 洋時計 国指定重要文化財



# 少年竹千代が行く

〔静岡市葵区〕

13 竹千代君像

14 臨濟寺

15 静岡浅間神社

16 小梳神社

17 増善寺

〔静岡市清水区〕

18 清見寺

家康公手習いの間

後の家康公をつくった  
幼少時代ゆかりの地

三河に生まれた竹千代君  
(家康公)は、人質として駿府  
を治めていた今川義元のとこ



臨濟寺

臨濟寺本堂：賤機山(しずはたやま)の山麓にある臨濟宗妙心寺派の禪寺で、今川家の菩提寺。竹千代君が教えを受けた太原雪斎和尚が住職を務めた。本堂は1587年(天正15年)に家康公が再建。

静岡市葵区大岩町7-1  
☎054-245-2740  
拝観／修行寺のため、公開は春・秋の特別拝観のみ



大御所を作った  
幼少時の学び

臨濟寺、清見寺の  
住職を兼ねた太原雪斎に  
つき、竹千代君は字を習  
い、書籍を読み、兵法を学  
んだという。両方の寺には、  
竹千代君が学んだ「手習い  
の間」がある。焼失した臨  
濟寺は、江戸時代に家康公  
により復元された。



13竹千代君像  
静岡駅の北口駅前広場  
にある人質時代の竹千  
代君の像

ろへ送られ、8歳から19歳までの12年を過ごした。

人質と言つても、勉強する機会が与えられ様々な人から学んだとされ、臨済寺の和尚で義元の軍師でもあった太原雪斎もその一人。早くから竹千代君の才能を見抜いていたという。寺には江戸時代に復元された「竹千代君手習いの間」がある。

竹千代君が14歳になると、義元は「元」の一字を与え元服させ、竹千代君は松平次郎三郎元信と名乗る。元服式が行われたのが静岡浅間神社だ。

増善寺は、等膳和尚と岡崎時代から顔見知りだったことでよく訪れた場所。あるとき寺の参道で小鳥を捕っていた竹千代君。村人から「この寺は殺生禁断の地、殺生するとはけしからん」と叱られ、話を聞いた和尚からも説教されたという逸話が残る。

おくし  
16小梳神社



静岡市葵区紺屋町7-13  
☎054-252-6660

人質として駿府に來た竹千代君が立ち寄り、武運長久を祈願して今川義元と対面したと伝わる神社。元は駿府城内にあった。

17増善寺



静岡市葵区慈悲尾302  
☎054-278-6333

今川氏親(うじちか)の菩提寺。竹千代君は等膳和尚を慕い、しばしば寺を訪れたという。等膳和尚は後に可睡斎(かすいさい)住職になった。

18静岡浅間神社



神部神社・浅間神社・大蔵御祖(おとしみおや)神社を総称して静岡浅間神社と呼ぶ。総漆塗りの壮大な社殿は、国の重要文化財に指定されている。楼門には「水呑の龍」「虎の子渡し」などの総漆塗の彫り物、二層部分には「當國總社・富士新宮」と書かれた扁額(へんがく)がある。家康公は武田氏攻略にあたり戦勝を祈願し、必ず再建すべく祈誓をして社殿を焼き払い後に造営。その後、火事により焼失するも、徳川幕府により現在の社殿が再建された。

静岡市葵区宮ヶ崎町102-1 ☎054-245-1820  
拝観時間/本殿の特別拝観10:00~16:00  
拝観料/本殿の特別拝観 中学生以上500円、小学生300円

せいけん  
18清見寺

家康公は大御所として駿府に來たときも、当時の住職大輝和尚(第三世)に帰依し、再三、訪れたという。

静岡市清水区興津清見寺町418-1  
☎054-369-0028  
拝観時間/8:30~16:30  
拝観料/大人300円、中高生200円、小学生100円



手習いの間がある大方丈



家康公手習いの間

# 家康公ゆかりの女性たち

【静岡市葵区】

19 華陽院

20 蓮永寺

21 瑞龍寺

22 宝台院

23 江浄寺

MAP P16-17

【静岡市清水区】

家康公とともに時代の波に  
翻弄された様々な人生

二人の正室と十五人の側室が  
いたとされる家康公。

16歳で正室として迎えたのは、  
今川義元の姪にあたる築山つきのやま  
御前ごまへ。1559年（永祿2年）  
に嫡男、信康公を生んだが、最  
後は疑いをかけられ浜松城へ戻  
る途中に殺されてしまう悲劇



19 華陽院

元の名は知源院といい、家康公が源応尼（げんおうに）の50回忌の法要をした際に、その法名から華陽院と改めたという。祖母、源応尼の墓と並んで家康公の娘、市姫や側室、お久の方の墓がある。

①源応尼の墓：源応尼（於富（おとみ）の方）は、人質時代の家康公を世話した母方の祖母。浜松で訃報を聞き、三河松（静岡の大火で焼失、現在の松は2代目）を墓所に植えることを頼み、その冥福を祈ったという。

②市姫の墓：1610年（慶長15年）に7歳で亡くなった家康公の娘の市姫は、源応尼の墓の隣りに祀られている。市姫ゆかりの屏風が残されている。

静岡市葵区鷹匠2-24-18  
☎054-252-3673



## 家康公苦渋の決断

家康公の嫡男、岡

崎三郎信康公は、母

である築山御前ともども

武田家との内通を疑われ

て、死へ追いやられるとい

う悲しい運命をたどった。

自分と同盟を結んだ家

康公に、織田信長が2人の

殺害を命じたと言われて

いる。築山御前は殺され、

信康公は遠州二俣城たまた内で

自害する。背景には信康

公の正室徳姫から送られ

た十二か条の訴状に内通

の件などがあり、父である

信長が激怒したからと伝

えられている。

の女性だ。

もう一人の正室は、浜松城から駿府城へ移った1586年(天正14年)に迎えた駿河御前(旭姫または朝日姫)。豊臣秀吉の妹で、家康公を懐柔するために、秀吉により佐治日向守と離縁させられ家康公へ嫁がされた。まさに戦乱の世ならではの婚姻だ。

二代将軍秀忠公の生母になる西郷の局(お愛の方)は、家康公とともに浜松城で戦の時代を乗り越え、駿府へ移って3年も経たないうちに38歳という短い生涯を終えた。

晩年の家康公に寵愛されたお万の方は、1602年(慶長7年)に紀伊徳川家初代藩主の頼宣公を、1603年(慶長8年)に水戸徳川家初代藩主の頼房公を生んだ。敬虔な日蓮宗の信者で、家康公が亡くなると、三日後には髪を下ろし「養珠院」と号した。



### 20 蓮永寺

敬虔な日蓮宗の信者であった、家康公の側室、養珠院(お万の方)が再興した寺。駿府城を守る鬼門として現在の位置に建てられた。

- ①仁王門: 朱の門をくぐると大きなイチヨウの木がある。
- ②養珠院(お万の方)の供養塔: 花崗岩(かこうがん)でできた塔。静岡市指定文化財。

静岡市葵区沓谷2-7-1  
☎054-245-1536



### 22 宝台院

秀忠公が、現在の地に大伽藍(だいがらん)を建て大法要を営み、寺名も金米山宝台院龍泉寺となった。

西郷の局(お愛の方)の墓: 家康公の側室で二代将軍徳川秀忠公の生母である、西郷の局(お愛の方)が眠る。



### 21 瑞龍寺

家康公が住職を駿府城に集めて法門を開いたとされる駿河七ヶ寺の一つ。母が病气ということで京都に戻ったまま聚楽第(じゅらくてい)で没した、家康公正室で秀吉の妹、旭姫の墓がある。

- ①瑞龍寺: 門柱の右には泰雲山、左には瑞龍寺とある。
- ②旭姫の墓: 旭姫の法名「瑞龍寺殿光室継大禅定尼(ずいりゅうじてんこうしつそうぎょくだいぜんじょうに)」から寺の名前になった。

静岡市葵区井宮町48 ☎054-271-2634

静岡市葵区常磐町2丁目13-2 ☎054-252-1090  
拝観時間/9:00~17:00 休日/土・日曜、祝日、年末年始、お盆  
拝観料/大人200円

### 23 江淨寺

家康公の嫡男、岡崎三郎信康公の遺髪を祀る御廟所(ごびようじょ)がある。東海道を往来する大名たちは行列を止め、必ずこの御廟に参ったという。

静岡市清水区江尻東三丁目6-6  
☎054-366-5563



岡崎三郎信康公の墓



# 逸話で辿る家康公の足跡

【藤枝市】

24 田中城跡と田中城下屋敷

【静岡市清水区】

25 海長寺

26 西湖山林香寺

【静岡市葵区】

27 若宮八幡宮 大楠

【牧之原市】

28 相良城本丸跡  
(牧之原市史料館)

【榛原郡吉田町】

29 能満寺

小山城(能満寺山公園)

家康公の歴史を彩る  
様々なエピソード

家康公は竹千代時代に12年、江戸へ移る前に4年、大御所として10年を駿府で過ごした。駿府城

## 24 田中城跡と田中城下屋敷

1537年(天文6年)に今川氏の家臣である一色氏が築いた円形の城が田中城。一色氏やその子孫の屋敷があったと伝えられ、田中城にあった本丸櫓(やぐら)や茶室などが移築・復元されている。家康公はこの城を気に入り、鷹狩りの際は立ち寄ったという。

藤枝市田中3-14-1

☎054-644-3345(史跡田中城下屋敷)

開館時間/9:00~17:00

休館日/月曜日・祝日の翌日、年末年始(12/28~1/4)



## 25 海長寺

平安朝に創建された天台宗の古刹(こさつ)で徳川時代に現在の名前となる。徳川家とゆかりが深く、寺領8石を与えられ、三つ葉葵が定紋になっている。手前が朱印の櫓。

静岡市清水区村松299

☎054-334-1959



泣く蘇鉄に  
家康公もびっくり

能満寺の本堂前に

ある高さ約6m、幹の太さ約5mの大きな蘇鉄は安倍晴明が中国から持ち帰り、植えたものとか。日本三大蘇鉄の一つに数えられている。家康公はこの蘇鉄を気に入って駿府城内に移したところ、「寺へ帰りたい」と夜ごと泣くので、再び寺に戻したという伝説が残る。能満寺のある一帯は、能満寺山公園として整備され、展望台も小山城もある。



下をはじめ、周辺には多くの逸話が残されている。

家康公は鷹狩りが好きであちらこちらへ出かけたというが、その際の話も多い。林香寺の山椒にまつわる話は、鷹狩りの帰りに立ち寄った折、家康公が所望した冷水に、和尚が山椒を浮かべて献上したところ、香りを気に入り、山椒の献上を命じたというもの。真意は定かでないが、家康公死因説として取り上げられる「興津鯛の夫婦羅」は、田中城でのできごと。鷹狩りの帰り、ここで食べた夫婦羅で体調を崩したという。

戦で東奔西走した家康公は、ときには敵から逃れるために身を隠したこともあり、牧之原市（家康のかくれ井戸）や海長寺などに逸話が伝わる。海長寺の椿の大樹に隠れたときは、寺の僧侶が「もし家康公がいなければどうするかと言ったのに対し、追手の今福丹波は「首を与える」と約束し、見つけ出せず自害したという。



**27 若宮八幡宮 大楠**  
樹齢1000年を超える巨大の大楠は、静岡市天然記念物に指定されている。大御所となった家康公も木の下で休んだとか。

静岡市葵区浅間町1-40  
☎054-251-5880  
(静岡観光コンベンション協会)



**26 西湖山林香寺**

山号は境内から眺める駿河湾の情景が中国の西湖に似ていることから、山椒の献上を命じた家康公から、13石余と山林や竹林の諸役御免の朱印状が与えられたという。

静岡市清水区由比東山寺38 ☎054-375-2422



**28 相良城本丸跡(牧之原市史料館)**

相良城は相良御殿とされ、家康公の鷹狩りに用いられた。その後、1768年(明和5年)に田沼意次(おきつぐ)が徳川10代將軍の命により築城した。相良城本丸跡に建つ史料館には、田沼氏、相良氏、本多氏ゆかりの資料などが展示されている。

牧ノ原市相良275-2 ☎0548-53-2625 開館時間：9:00~16:00  
休館日/月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、年末年始(12月28日~1月4日)  
入館料/大人210円、高校生以下100円

**29 展望台 小山城**

武田信玄が築いた小山城は、家康公との激しい戦いが繰り広げられた場所。敗北を悟った武田方は城に火をかけ、甲州へ落ちたという。現在は展望台として建てられた天守閣があり、中は史料館になっていて、武田氏ゆかりの品々などが展示されている。

榛原郡吉田町片岡2519-1能満寺公園内  
☎0548-33-2122(吉田町産業課)  
開館時間/9:00~16:30 休館日/月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日  
入館料/展望台 小山城入場料200円



●能満寺  
榛原郡吉田町片岡2517-1  
☎0548-32-1555

# 静岡県西部編

県西部エリアは、家康公が青壮年期を過ごした浜松城や唯一の負け戦といわれる三方ヶ原の合戦地などが見どころ。苦難を乗り越えてきた家康公の姿に思いを馳せてみよう。

戦国ロマンあふれる名城、山城を訪ねる

## 家康公ゆかりの城めぐり

MAP 〔浜松市〕1〜2 〔掛川市〕3〜4 〔菊川市〕5

34・35ページ

最大のピンチ、激闘に思いを馳せる

## 三方ヶ原合戦の足跡

MAP 〔浜松市〕6〜9 〔磐田市〕10

36・37ページ

喜びと悲哀と。家族のものがたりを探る

## 家康公と息子たちゆかりの地

MAP 〔浜松市〕11〜15 〔湖西市〕16 〔袋井市〕17

38・39ページ



遠州灘



若き日の徳川家康公像



# 家康公ゆかりの城めぐり

MAP P32-33

〔浜松市〕

1 浜松城

2 浜松東照宮(引間城跡)

〔掛川市〕

3 掛川城

4 高天神城跡

〔菊川市〕

5 獅子ヶ鼻砦跡

困難を乗り越えて  
家康公ゆかりの城めぐり

立身出世で知られる場所はいろいろあるが、家康公が29歳から16年間を過ごした浜松城は、最強の出世スポットのひとつだ。家康公はここを拠点に

## 1 浜松城



浜松公トリビア  
その六

見どころ満載の  
浜松を案内します



私がおすすめの

見どころは、浜松城の石垣ととくに、野面積みの石垣と埋門南側の屏風折れの石垣(写真②)に注目してほしいですね。石垣を屏風のように折り曲げ、敵の攻撃を受け難くしたそうです。また、浜松城公園から歩いて行ける浜松東照宮もおすすめです。このほか、二代將軍の秀忠公ゆかりの五社神社や、家康公が武運長久を祈ったと伝えられる浜松八幡宮も風情があります。私自身は、家康公の旗印『厭離穢土欣求浄土』がとても好きで、家

※厭離穢土 欣求浄土(おんりえど ごんくじょうど)とは…苦悩の多い穢れたこの世を厭(いと)い離れたたい願い、心から欣(よろこ)んで平和な極楽浄土を冀(こゝねが)うこと。

浜松観光ボランティアガイドの会  
池谷 勝利さん

領土拡大の足固めを行い、出世街道を邁進したからだ。家康公が去つてからも、浜松城主になると幕府の要職に登用される者が多かったことから、「出世城」と呼ばれるようになった。

信玄が駿河を手に入れ、遠江国やその先の三河侵攻を意図しており、家康公は信玄の侵攻に備えて遠州一帯を見渡せる三方原台地の東南端に浜松城を築いた。

荒々しく戦場を駆けまわつた浜松城時代の家康公。天下統一を果たしてからは、戦のない世の中をつくろうと力を尽くした。これも、戦という試練をいくつも経験したせいかもしれない。

この他、静岡県西部エリアには掛川城や高天神城跡、獅子ヶ鼻砦跡など、家康公ゆかりのスポットが多く、観光地としても人気だ。



### 3 掛川城

- ①掛川城 天守:東海の名城とも呼ばれた美しい掛川城。天下取りを目指す武將にとって、重要な拠点だった。
- ②掛川城二の丸御殿:国の重要文化財指定の貴重な建築物。江戸時代の藩政治や、大名の生活に思いを馳せたい。

掛川市掛川1138-24  
☎0537-22-1146  
営業時間/2月1日~10月31日まで9:00~17:00(入館16:30まで)、  
11月1日~1月31日9:00~16:30(入館16:00まで)  
利用料金/大人400円、小中学生150円

- ①浜松城 天守:昭和33年に再建されたもの。現在、天守の展望台からは絶景が楽しめ、晴れた日は東に富士山も見える。
- ②浜松城の石垣:自然石を積み上げる野面積みの石垣が当時の面影語る。埋門近くの「屏風折れ」の石垣にも注目しよう。
- ③徳川家康:浜松城公園にある家康の石像。若き日の姿を見ることが出来る。
- ④蜜柑の木:晩年、駿府城に隠居した家康に紀州から蜜柑の木が献上された。この蜜柑の木は、献上された木から接木したもの。

※天守門工事のため写真の場所に蜜柑の木はありません

浜松市中区元城町100-2  
☎053-453-3872(浜松城)  
☎053-457-2295(浜松市役所 観光交流課)  
営業時間/8:30~16:30  
休館日/12月29日~31日  
入場料/大人個人(高校生以上)150円



### 5 獅子ヶ鼻砦跡

家康公が高天神城を落とすために築いた6砦のひとつ。砦跡からは富士山も見える。

菊川市大石地内  
☎0537-35-0936  
(菊川市建設経済部商工観光課)



### 4 高天神城跡

「高天神城を制する者は遠州を制す」といわれ、徳川軍と武田軍が争奪戦を繰り広げた。

掛川市上土方峰向  
☎0537-21-1149  
(掛川市役所 商業労政観光課)

### 2 浜松東照宮(引間城跡)

浜松城の前身である引間城跡にある浜松東照宮は、権現(ごんげん)様(家康公)をまつる神社。社殿には徳川家の家紋「三つ葉葵」があり、境内にはかつて引間城があったことを示す「曳馬城跡」と刻まれた史跡碑もある。

浜松市中区元城町111-2



### ◆浜松観光ボランティアガイドの会

平成11年に設立。100名を超える会員が浜松城を中心に旧浜松市内で活動。浜松城には毎日10時から15時まで会員が交代で常駐している。浜松城以外の「家康の散歩道」などの案内は予約が必要。(1週間前までに)

浜松市中区元城町100-2  
☎053-456-1303(浜松城内)

康公は平和を心から願った人だと思えます。家康公ゆかりの旧跡が多く残る浜松へ、ぜひお越しください。

# 三方ヶ原合戦の足跡

〔浜松市〕

6 三方ヶ原犀ヶ崖古戦場

犀ヶ崖資料館(宗円堂)

7 浜松八幡宮の雲立の楠

8 二俣城址

9 鳥羽山城址

〔磐田市〕

10 一言坂の戦跡・一言観音

家康公の人生の転機  
三方ヶ原合戦の地へ

家康公のキャラクターとい  
えば、忍耐強く、熟考して行動  
する慎重派というイメージが  
強い。しかし、若い頃は血気盛  
んな向こう見ずだったらしい。  
そんな一面をうかがい知るこ

## 6 三方ヶ原犀ヶ崖古戦場 犀ヶ崖資料館(宗円堂)

- ①犀ヶ崖資料館(宗円堂):現在は資料館として合戦などの資料を展示する宗円堂。三方ヶ原合戦における徳川・武田両軍の死者を祀るため、建立されたと伝えられている。
- ②犀ヶ崖古戦場:浜松城に逃げ帰った徳川軍が、その周辺に野営していた武田軍に奇襲をかけて打ち勝ったと伝えられる場所。現在は犀ヶ崖古戦場として県の史跡に指定。



浜松市中区鹿谷町25-10  
☎053-472-8383(犀ヶ崖資料館)  
開館時間/9:00~17:00  
休館日/月曜、年末年始、祝日の翌日(翌日が土・日などの場合は変更) 入館料/なし

## 7 浜松八幡宮の「雲立の楠」

三方ヶ原合戦に敗れた家康公は浜松八幡宮に逃れ、社前の楠の洞穴に潜んだ。その時、楠から瑞雲(ずいうん)が立ち上ったことから「雲立の楠」と呼ばれるようになったという。「雲立の楠」は静岡県の天然記念物に指定されている。



浜松市中区八幡町2  
☎053-461-3429(代)



地名や名字に残る  
家康公の伝説

三方ヶ原合戦に敗れて浜松城に逃げ帰った家康公にはいくつか伝説があり、それが地名や名字となつて残っている。例えば、現在の「小豆餅あずきもち」という地名は、逃げる途中に茶店で小豆餅を食べたとされる場所。この時、武田軍が追つて来たため、慌てた家康公はお金も払わず逃げてしまつた。茶店のお婆さんが追いかけて、小豆餅の代金を受け取つた場所が「銭取ぜにとり」の地名となつたという。

この他にも、家康公は逃げるうちに空腹になり、農

とができるのが、武田信玄と激突した三方ヶ原合戦だ。

上洛を狙う信玄は徳川方の二俣城を攻め落とす。その後、家康公のいた浜松城には見向きもせず、三方ヶ原を通過しようとしていた。31歳の家康はそれを見逃すことができず、自分から攻め込んでいったのだ。その時、武田軍が3万だったのに対し、家康公の軍勢はわずか1万足らず。たちまち敗軍となり、家康公は家臣のふりをして浜松城に戻ったといわれる。

人生最大の敗北であり、その後の家康公に貴重な教訓をもたらしたといわれる三方ヶ原合戦。敗走する家康公が身を隠した浜松八幡宮、武田軍を徳川軍が急襲して打ち破ったという犀ヶ崖古戦場など、家康公のターニングポイントとなった合戦ゆかりの地をたどってみよう。



### 9 鳥羽山城址

現在は鳥羽山公園となり、桜の名所として有名。鳥羽山城は家康公が二俣城を攻める際に築いた4つの付城(城を攻める際に築く城)のひとつ。中でも鳥羽山城は最大の規模と堅固さを誇り、二俣城攻略の本陣とされる。

浜松市天竜区二俣町二俣  
☎053-922-0033(天竜区役所まちづくり推進課)



### 8 二俣城址

建造物はないが、戦国時代は今川、武田、徳川の争いの舞台となった。城址史跡には、家康公が活躍した時代のままの石垣が残り、歴史ロマンも感じられる。高台に位置するため、眼下には天竜川などの眺望が広がる。

浜松市天竜区二俣町二俣  
☎053-922-0033(天竜区役所まちづくり推進課)



### 10 一言坂の戦跡・一言観音

三方ヶ原合戦の前哨戦で破れて逃げる徳川軍と追いかける武田軍が、再び合戦になった地が一言坂。武田軍に追いつかれた家康公は一言観音に立ち寄り、勝利を祈願したという。一言観音は一生に一度、一言だけ願いを叶えてくれるといわれ、家康公も無事に退却できた。

磐田市一言797  
☎0538-32-1024(一言観音〈智恩斎〉)

おがい

小粥

銭取

小豆餅



家の老夫婦におかゆを何杯もごちそうになった。そのお礼として、老夫婦に「小粥」という名字と、丸に二引きの家紋を与えたといわれている。

# 家康公と息子たちゆかりの地

〔浜松市〕

11 清瀧寺

12 中村家住宅

13 太刀洗の池

14 五社神社・諏訪神社

15 気賀関所

〔湖西市〕

16 本興寺

〔袋井市〕

17 秋葉総本殿 可睡齋

悲喜こもごも

家康公の息子たち

戦国時代の武将は、正妻の他に何人もの側室を持つことは当たり前で、子どもの数も多し。家康公も息子が11人いたと

せいりゆつし  
11 清瀧寺

非業の死を遂げた家康公の嫡男・信康。清瀧寺は信康を弔うため、家康公が建立した寺。寺の奥には信康廟がある。毎年10月、信康の霊を慰める「信康まつり」が行われる。

浜松市天竜区二俣町二俣1405  
☎053-925-3748  
開館時間/9:00~17:00  
入場料/境内自由



12 中村家住宅

家康公の側室・お万(まん)の方が、家康公の第二子・於義丸(おぎまる)(後の結城秀康)を出産した屋敷。出産時の袍衣(えな)(後産)を埋めた袍衣塚も現存する。

浜松市西区雄踏町字布見4912-1  
☎053-596-5585  
開館日/金曜・土曜・日曜・祝日(12月28日~1月4日は休館)  
会館時間/9:30~16:30(入館は16:00まで)  
観覧料/高校生以上200円、小中学生100円



家康公と関わりが深い可睡齋

寺号の「可睡齋」は、家康公により名付けられたものです。これには逸話があり

まして、11代目の住職、仙麟等膳和尚は、竹千代君(家康公)を助けたのが縁で浜

松城主になった家康公と対面することになったのですが、その場で居眠りをしてしまいました。それを家康公は「和尚、眠るべし」と許しただけでなく、可睡和尚という名を付け、寺の名前も東陽軒から「可睡齋」と改められました。家康公はユーモアのある人だったようです。

十万石の待遇を受け、住職は一带の寺院を統括する東海大僧録司を務めました。住職も12



秋葉総本殿 可睡齋  
佐瀬道淳 齋主老師

いう。

家康公は忍耐と苦難に満ちた歳月を過ごしたが、その人生の中でも嫡男・信康の死は歯を食いしばって堪え抜いたでぎことだったといわれる。信康は、織田信長から「敵方の武田家に通じている」と疑いをかけられ、二俣城で自害した。信長の命令を受けて、信康に切腹を命じたのは父親である家康公だったのだ。この悲劇は信康が21歳、家康公が38歳の時に起きたという。

二男の於義丸は、秀吉の養子となり秀康を名乗り、さらに後に結城家に養子になった。三男の秀忠が二代将軍となり、家康公の跡を継いで徳川幕府の基盤を築いてく。

ここでは家康公と息子たちにゆかりが深いスポットを中心に紹介しよう。訪れることで、武将としての家康公だけではなく、息子たちに対する父親としての思いも感じてみたい。

### 15 気賀関所

1601年(慶長6年)、宿場町だった気賀に家康公が気賀関所を創設した。建物も再建されているので、江戸時代の雰囲気も楽しめる。



浜松市北区細江町気賀4577 ☎053-523-2855  
 開館時間/9:00~16:30 休館日/無休  
 入館料/大人200円、中学生以下は無料  
 ※団体・20人以上 160円、70歳以上は証明できるものを提示すれば免除

### 13 太刀洗の池

家康公の正妻で信康の母親、築山御前(つぎやまごぜん)ゆかりの地。築山御前は武田家と通じて家康公や信長を裏切ったとされ、家康の家臣に殺害された。その時使われた太刀を池で洗ったため、水が枯れたといわれる。



浜松市中区富塚町328  
 見学自由



### 16 本興寺

家康公の側室・西郡(にしごおり)の方の信仰が厚かったといわれる寺。歴史ある古刹(こさつ)としても有名。江戸時代に家康公から朱印地を拝領し、葵の紋の使用を許されたといわれる。

湖西市鷺津384 ☎053-576-0054  
 開園時間/9:00~16:30(開門17:00)  
 休園日/不定休(12月31日は休) 入園料/大人300円、小人200円



### 14 五社神社・諏訪神社

五社神社は三男・秀忠が誕生した際、秀忠の産土神(うぶすながみ)として浜松城内から移された。現在は五社神社の境内に諏訪神社があるが、かつては北側に五社神社、南側に諏訪神社が並んでいたという。

浜松市中区利町302-5  
 ☎053-452-3001



### 17 秋葉総本殿 可睡斎

約10万坪の敷地に本堂や秋葉総本殿三尺坊(さんじゃくぼう)様御真殿、座禅堂など、建物の内外に35ヶ所の見どころがあり、牡丹や紅葉など四季折々の自然の美しさも楽しめる。また、座禅、写経、精進料理など様々な体験ができる。

静岡県袋井市久能2915-1  
 ☎0538-42-2121

家康公の御位牌はじめ、家康公の肖像画を描いた掛軸や家康公所持の大黒様の掛軸など、家康公や徳川家ゆかりの品々も多数所蔵しており、それらは宝物館で展示しています。

また、家康公が築山御前の亡霊に悩まされたときも、等膳和尚と12世、13世となった弟子が霊を鎮めたという話も伝わっています。

世から45世までは徳川幕府により決められるなど、家康公、徳川家とは深い関係にあり、本堂屋根など様々なところに三つ葉葵があります。奥の院の手前に洞穴があります。これは戦国時代の家康公が武田勢から逃れるために隠れて命拾いをしたところ。後に家康公が出世したことから「出世六の字穴」とも家康公の呼び名から「権現洞」とも呼ばれています。



出世六の字穴

# 静岡県 東部 編

県東部エリアは、大御所時代の家康公ゆかりの地が多い。  
家康公の優れた外交手腕がうかがえる。ポットをはじめ、  
重厚な趣の寺社など、パワースポットめぐりもおすすめだ。

平和を願った家康公の外交策を探る

## 家康公の国づくりと夢の跡

MAP 〔伊東市〕1〜2 〔東伊豆町〕3 〔三島市〕4〜6

42・43 ページ

美しく重厚感あふれる佇まいに強運を願って

## 家康公の祈りと。パワースポット

MAP 〔三島市〕7〜8 〔富士宮市〕9 〔沼津市〕10 〔熱海市〕11

44・45 ページ

城跡に戦国武将の勇気を見る

## 小田原城攻防ゆかりの城跡

MAP 〔三島市〕12 〔駿東郡〕13 〔伊豆の国市〕14 〔沼津市〕15

46・47 ページ



接針像



# 家康公の国づくりと夢の跡

〔伊東市〕

1 按針メモリアルパーク

2 ウィリアム・アダムス記念碑

〔東伊豆町〕

3 稲取の築城石

〔三島市〕

4 富士川渡船場の碑

5 東海道 松並木

6 宝池寺一里塚

MAP P40・41

今も息づく家康公の国づくりの夢

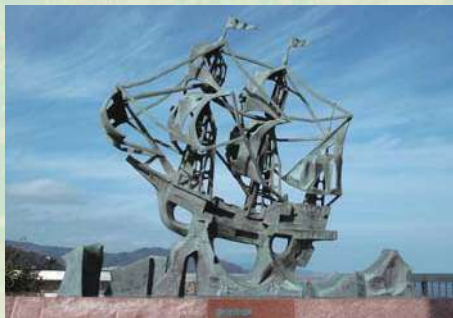
戦国の世に終止符を打った家康公は征夷大將軍となり、江戸幕府を開いた。そして、江戸城の築城や街道の整備に着手するなど国づくりを進めていく。64歳で秀忠に將軍職を譲り、隠居の

## 1 按針メモリアルパーク

ウィリアム・アダムス(三浦按針)の功績をたたえてつくられた公園。どこか異国情緒を感じる園内には記念碑をはじめ、地元の彫刻家・重岡健治氏が手がけた按針像もある。

伊東市渚町6-16

☎0557-37-6105(伊東観光協会)



## 2 ウィリアム・アダムス記念碑

①記念碑:ウィリアム・アダムスが日本初の洋式帆船を建造し、その400年を記念する碑。川口公園内にある。関ヶ原の戦いがまだ始まる前の1600年(慶長5年)4月、ウィリアムは船の難破によって九州に漂着。取り調べを行った家康公は彼の人物のすばらしさを知り、天下統一後に外交顧問にした。

②按針祭(あんじんざい):毎年夏に開催される按針祭。祭りのクライマックスは夜空を華麗に彩る花火大会だ。

伊東市渚町4(川口公園)

☎0557-37-6105(伊東観光協会)



江戸城を築いた石は静岡産!

江戸城の修築にも用いられた伊豆石は、良質な石として知られている。伊豆半島やその周辺は古くから伊豆石の加工が行われてきた地域。石を切り出していた時期などは不明だが、現在も伊豆市の紙谷地区、土肥、東伊豆町などで、石丁場跡(山から石を切り出した跡)が見られる。切り出した石をそのまま船で運びやすいように、石丁場の多くは海岸線にあった。石丁場跡を見れば、機械などがなかった当時の人々の知恵や工夫、苦心も感じられる。

身になってからも大御所として国づくりに力を注いだ。

家康公は知識欲が旺盛で、学問好きだったといわれる。英国人航海士で外交顧問だったウィリアム・アダムス(三浦按針)から数学や地理学、海外の情報などを学び、外国との交易を夢見た。ウィリアム・アダムスに命じて日本初の洋式帆船もつくらせている。

また、江戸を中心に五街道の整備に力を入れ、特に東海道を重視した。1601年(慶長6年)には東海道の伝馬制をしき、通行の便宜を図っている。ちなみに現代の日本の交通網は、江戸幕府が整備した街道が発展したもの。家康公の国づくりは、今の私たちの暮らしにも息づいているのだ。

天下を取った武将から、優れた政治家となって手腕を発揮した家康公。そのゆかりのスポットへ出かけよう。



### 5 東海道 松並木(三島市)

国道1号(旧東海道)で見られる1km以上にわたる松並木。江戸幕府が植えさせた名残りで、夏は木陰をつくり、冬は風を防いで街道を行く当時の旅人を助けたという。

三島市川原ヶ谷 ☎055-971-5000(三島市観光協会)



### 4 富士川渡船場の碑 (松岡水神社境内)

国づくりの取り組みとして、街道などの交通網の整備に力を入れた家康公。富士川渡船場の碑は、富士川の渡船が旅人や産物輸送の交通手段であったことを伝えてくれる。この碑は、東海道の百年記念事業の一つとして建立された。

富士市松岡字船場1816  
☎0545-51-0283  
(富士市役所)



### 6 宝池寺一里塚

江戸幕府が主な街道沿いに築いた一里塚は、半球状に土を盛り、頂上に木を植えたものが標準形とされる。宝池寺の一里塚は、東海道を挟んで伏見玉井寺(ぎよくせいじ)の一里塚と一対となる貴重なものだ。

駿東郡清水町伏見720-1  
☎055-981-8238(清水町観光協会)



### 3 稲取の築城石

家康公の江戸城大修築の発令により、命を受けた藩は伊豆の山で築城石を採取した。稲取文化公園には江戸城の修築のために切り出された角石が残る。写真は土佐二代目藩主(山内一豊の甥)が準備したもの。

静岡県賀茂郡東伊豆町稲取1699-1  
☎0557-95-2901  
(稲取温泉旅館協同組合)



### ●伊豆石と石丁場跡 (伊豆市)



# 家康公の祈りと。パワースポット

〔三島市〕

7 三嶋大社

8 玉澤妙法華寺

〔富士宮市〕

9 富士山本宮浅間大社

〔沼津市〕

10 吾妻神社(御殿跡)

〔熱海市〕

11 大湯間欠泉

家康公にあやかつて  
強運パワーをいただこう

信仰心が厚い家康公は、神社やお寺を訪れて戦勝を祈願した。徳川幕府を開いてからは泰平の世を願ったことだろう。ここ静岡県東部エリアでは、家康公ゆかりの開運スポットをぜひ訪れたい。



- ①本殿:重要文化財指定を受けている。高さ約16mで、これは東海地域の古建築社殿としては最大級といわれる。ケヤキ材に彫刻を施した美しい装飾も見どころ。三嶋大社に伝わる「三嶋大社造営図」は、一番古い「慶長絵図」が家康公造営の社殿を描いたもの。三代将軍家光の造営時の「寛永絵図」、四代将軍家綱造営の「承応(じょうおう)絵図」も残る。
- ②宝物館:三嶋大社に伝わる宝物を収蔵し、その一部を展示公開する。建物の奥には鹿が十数頭いて、餌をあげることもできる。
- ③白御影石(しろみかげいし)の大鳥居:瀬戸内海の小豆島から切り出した御影石を使った鳥居。1863年(文久3年)に建てられた。



三島市大宮町2-1-5  
 ☎055-975-0172(三嶋大社代表) ☎055-975-0566(三嶋大社宝物館)  
 宝物館 開館時間/9:00~16:30(入館は16:00まで) 休館日/不定期(展示替日のみ)  
 入館料/一般500円 大学生・高校400円 中学生・小学生300円



健康を気づかう

家康公が愛した大湯

熱海は、源頼朝や家康公など、武將たちに愛された歴史ある温泉の地。健康維持を心がけていた家康公は熱海の大湯を好んだという。初めて熱海を訪れたのは1597年(慶長2年)で、その7年後には息子の義直と頼宣を連れて訪れ、7日間、熱海に逗留したという。また、京都で病氣療養中だった大名・吉川広家のお見舞いとして、大湯から沸く温泉を運ばせたといわれる。四代将軍家綱も大湯の温泉をヒノキ樽に詰めて江戸城まで運ばせた。

白い鳥居がある三嶋大社は、源頼朝が源氏再興を祈願したことでも知られる。頼朝の成功により、多くの武将たちから信仰された。その当時から、強いエネルギーがもたらえるパワースポットとして有名だったようだ。家康公も1594年(文禄3年)に330石を寄進し、関ヶ原の戦いを制したことで200石を増した。家康公の他、三代将軍家光、四代将軍家綱も三嶋大社を崇敬した。

霊峰富士がご神体の富士山本宮浅間大社には壮麗な社殿があるが、これは家康公が関ヶ原の戦いに勝利したお礼として造営したもの。全国から宮大工を集めてつくったという社殿や拝殿が今も残っている。

厳かな空気に心も癒されるパワースポット。多難を乗り越えて大出世を果たした家康公にあやかっ、強運やご利益をしっかりとって帰ろう。



### 9 富士山本宮浅間大社

全国の浅間神社の総本宮で、パワースポットとしても有名な神社。1604年(慶長9年)に家康公が造営した社殿は本殿・拝殿・舞殿・楼門などを備えていた。現存するのは本殿・幣殿・拝殿・楼門のみ。幣殿・拝殿も家康公の寄造営によるもの。

富士宮市宮町1-1  
☎054-427-2002



### 8 玉澤妙法華寺

家康の側室・お万(まん)の方によって鎌倉から三島に移された寺で、徳川家の家紋「三つ葉葵」の使用を許された数少ない古刹(こさつ)。春は桜、秋は紅葉の名所としても有名だ。

三島市玉沢1  
☎055-975-6111  
拝観時間/9:00~16:30



### 10 吾妻神社(御殿跡)

隠居した家康公が、現在の吾妻神社境内の周辺に御殿をつくったといわれる。御殿があった場所ということで、御殿場という地名になったといわれ、「御殿場発祥の地」の碑もある。

御殿場市御殿場196  
☎0550-83-4770  
(御殿場市観光協会)



●熱海駅前足湯 家康の湯  
熱海市上宿町(熱海駅前)  
☎0557-86-6218(熱海市観光施設課)  
時間/9:00~16:00(悪天候等利用中止になる場合あり) 定休日/年中無休 料金/無料

### 11 大湯間欠泉

かつては激しい勢いでお湯が噴出していた。1924年(大正12年)に止まってしまったため、現在は人工的に噴出する間欠泉として整備されている。約5分ごとに岩の間からお湯が噴き上がる。

熱海市上宿町  
☎0557-85-2222(熱海市観光協会)



# 小田原城攻防ゆかりの城跡

〔三島市〕

12 山中城跡

〔駿東郡〕

13 長久保城跡

〔伊豆の国市〕

14 葦山城跡

〔沼津市〕

15 沼津城本丸跡

敵方の心を動かした  
小田原攻城

人心掌握にも長けていたという家康公。秀吉による小田原攻城では、敵方である山中城を攻めるとともに、葦山城の城主を説得し、降伏させた。人の心を動かす力を発揮した戦にまつわる地を紹介しよう。



## 12 山中城跡

小田原城を守るために築かれた城。石を使わない土だけの山城で、全国的にも珍しい。現在は自然豊かな城址公園で、約400年前の遺構がそのまま復元されている。ツツジやアジサイなどが楽しめる。

三島市山中新田  
☎055-983-2656  
(三島市役所商工観光課)



## 13 長久保城跡

戦略上重要な拠点にあった長久保城をめぐって、家康公をはじめ今川氏、武田氏、北条氏が争った。小田原攻城では家康公が拠点に使っている。現在は、歴史と気軽にふれあえる公園として解放されている。

長泉町長久保  
☎055-988-8780(ながいずみ観光交流協会)



## 14 葦山城跡

小田原城を守る拠点となった葦山城。現在は散策路が整備されている。

伊豆の国市葦山町  
☎055-948-0304  
(伊豆の国市観光協会)

## 15 沼津城本丸跡

沼津城の前身は三枚橋城といい、武田氏の拠点だった。武田氏の滅亡によって家康公に明け渡され、名前も沼津城に改められた。現在、沼津城本丸跡は中央公園となり、沼津城本丸跡の碑が建てられている。

沼津市大手町4-185-4  
☎055-934-4747  
(沼津市産業振興部観光交流課)



# 世界が注目。鷹狩文化を築いた家康公

静岡は「鷹狩の都」!?

海外の鷹狩界でも

家康公は有名人!

## Special Interview

鷹狩の歴史は古く、数千年前にまでさかのぼります。中央アジアではじまったともアラブ地域ではじまったとも言われています。やがて中国、朝鮮半島を経て、日本には古墳時代頃に伝えられたと考えられます。腕に鷹を据えた鷹匠の埴輪も出土しています。



静岡文化芸術大学  
文化政策学部 国際文化学科 准教授

### 二本松 康宏さん

2011年にはアラブ首長国連邦で「第2回世界鷹狩の祭典」が開催され、75ヶ国から鷹狩の愛好家、研究者、保護・繁殖の関係者らが参加しました。前年の2010年にはアラブ首長国連邦やフランスなど11ヶ国が共同申請し、ユネスコの無形文化遺産として登録されています。鷹狩は世界的な広がりをもつ伝統文化なのです。



にのみ許された特別なパフォーマンスです。そのパフォーマンスは、鎌倉時代から室町時代にかけて、さらに高度に儀礼化されました。お茶やお華、あるいは能楽などと同じように芸術的なレベルにまで洗練され、やがて日本独自の鷹狩の文化が完成しました。

平安時代、日本では鷹狩は天皇の権威の象徴とされています。たんなる狩猟の技術ではなく、一部は貴族たち

家康公が鷹狩を愛好したことはよく知られています。駿府城址に建つ家康公の像も左腕に鷹が据えられています。鷹狩を愛好した日本の歴史上の偉人として、世界の鷹狩関係者たちにも家康公の名は知られています。



徳川幕府に仕えた鷹術の一派、諏訪流を受け継ぐ田籠(たごもり)善次郎氏(諏訪流放鷹術保存会)

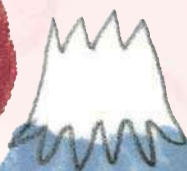
大御所となった家康公の庇護によつて駿府には鷹狩の文化が花開きました。中東あるいは中央アジアから長い道のりを経て日本にたどり着いた鷹狩の技。駿府は、いわば鷹狩の都となったわけです。

【静岡県民の皆さまから寄せられました】  
郷土に残る、言い伝えなどを大調査!

# 家康公ゆかりの 「こと・もの」

## エピソード集

ふじのくにに残る  
逸話、昔話を  
ご覧あれ!



徳川家康公は、戦国の時代を生き抜き、後の260年余の平和な江戸時代を築きました。

その生涯の大半を過ごした静岡県には、家康公ゆかりの史跡や、  
言い伝え、食や技術等が数多く残されています。

静岡県では、平成27年に徳川家康公没後400年という大きな節目を迎えることから、  
未来に継承すべき郷土の財産として、ゆかりの「こと」や「もの」を調査・掘り起こしました。

みなさまにも調査・募集を呼びかけたところ、

たくさんの応募をいただきました。ありがとうございました。

本誌・ふじのくに家康公観光事典は、これらの調査結果をもとに作られています。

ここでは、そのなかからいくつかのエピソードをピックアップしてご紹介いたします。



## 江川酒(井桁十六花卉菊の紋章) 伊豆の国市

ある日のこと、鷹狩で訪れた家康公に酒を献上したところ、とても気に入って喜び、その酒に使う井戸水を讃えました。その際に、家康公

がみずから河原に咲く菊を摘んで「家紋にせよ」といったため、江川家の家紋を「井桁十六花卉菊」の紋に改めたと伝えられています。また、江川家の造った酒を大坂夏の陣に献上し、重陽の酒として好まれたともいわれます。ちなみに、現在は地元の「江川酒を造る会」により酒づくりが復活し、幻の酒として人気だとか。

おび がね

## 帯金伝説 磐田市豊田町

磐田市豊田に「帯金」という姓の家があります。武田信玄との戦いで、家康公は敗れ逃げ、この帯金の家の門に立て籠りました。敵が去り帰ろうとすると、旅金が少しもなかったことに気づいた家康公が「少し金を貸してくれないか」とこの家の主に頼むと、すぐに帯の間にあったお金を差し出しました。その後、家康公はその主を呼び出して、「その節は世話になった。以後、名字帯刀を許す。名字は、そちが帯の間から金を出したことから、帯金がよからう」と帯金の姓を与えたといえます。



## 見渡し御朱印 周智郡森町三倉

信玄との戦いで家康公が一人逃げていたとき、草刈りをしていた百姓の久右衛門に助けを求めました。久右衛門は急いで家康公を草籠の中に入れ、その上に刈った草を一面にかぶせ、姿が見えぬようにしてかくまいました。家康公は「おかげで救われた。天下を取ったなら、きつと恩賞を贈ろう」と去りました。その後、家康公は、久右衛門を呼び出し「その節はありがとう、褒美として、その方の門前に立ち、見える限りの田畑を与える」と、御朱印のある書状を下付けしました。

## 池田渡船伝説

磐田市豊田町

元龜3年(1572年)、家康公は一言坂の戦いで破れ、数人の家来を連れて池田まで来ました。渡船方の庄屋をしていた善右衛門は船頭衆を10人程呼び集め西岸の半場まで無事に渡すと、家康が「ここは何と申すか」と聞いたので、「半場と申します」と答えたところ「これから半場の姓を名乗れ」といわれたそうです。

名付け  
名人でも  
あるぞ!

# ごほうびの話



## 了仙寺 下田市

大坂夏の陣の際、目に病を持った徳川家康は、家臣の勧めにより、当時目の神様として崇められていた行学院日朝上人に病平癒の願をかけまし

た。その祈願が成就したため、寺を建立することを約束しました。第3代将軍家光時代に了仙寺が建てられて以来、寺の寺紋は、徳川家の紋である三つ葉葵となっています。了仙寺は、下田条約が締結された寺として、ペリーなどアメリカ使節の接待所兼徳川幕府との交渉場所となったことでよく知られています。

## 阿弥陀橋 浜松市中区

三方ヶ原の合戦に敗れた家康公が逃げてきて橋を渡ろうとしたところ、肝心の橋が焼け落ちてありません。家康公は立ち往生し「もうだめか」と覚悟を決めたとき、近くの常楽寺から、ふわりと阿弥陀さまが出て来て、橋のかわりにこちらの岸からもうこう岸へからだを横たえたのです。家康公は思わず手をあわせ、阿弥陀さまの橋を馬で渡り、無事に浜松城へ帰ることができました。その後家康公は新しく橋を架け、「阿弥陀橋」と名づけました。今も常楽寺のご本尊の阿弥陀様には、馬のひづめの形が残っているそうです。現地には、郷土史家有志が建てた「史跡阿弥陀橋之跡」の石碑があります。



# しんじん深い話

## 椿姫観音 浜松市中区元浜町

椿姫観音のある地は、引間城主の妻、お田鶴の方が家康勢に攻撃されたとき、女ながらも懸

命に戦い、侍女たちと共に討死して果てたところといわれています。家康公はお田鶴の方と侍女18人を手厚く葬り祠を建て、正室築山御前がその周りに100本余の椿の木を植えて供養を営みました。毎年椿の木は美しい花を咲かせ、人々は椿姫塚(またはお台塚)と呼び追善供養を捧げています。お田鶴の方は家康公が駿府で人質時代にひと目惚れした「初恋の人」であったとも伝わっています。



つらいこともあったのじゃ...

# 哀しい話



【静岡県民の皆さまから寄せられました】  
郷土に残る、言い伝えなどを大調査!

## 家康公ゆかりの 「こと・もの」

エピソード集

# 不思議な話



## 園田の三度栗 周智郡森町

武田方との戦いに敗れた家康公はお腹がべこべこになり、農家の庭先に座り込んでしまいました。農家のお婆さんが「よかったらおありがください」と、生の栗の実を出したところ、家康公は、大喜びでむさぼり食べました。「命拾いました」と厚くお礼を述べ、食べ残した1つの栗の実を庭先に埋め、「わしの食べた分だけ実ってくれよ」といいながら2、3回踏みつけて、去っていきました。やがて、そこから芽が出て、大きく育った栗の木からは、6月、9月、11月と、1年のうちに3度花が咲き、実をつけたということです。

## 三川の三度栗 袋井市三川



袋井市三川にも「三度栗」の話が伝えられています。家康公は武田軍に追われてこの辺りに逃げ込み、急いで腹ごしらえをしようと、弁当の包みを開きましたが箸が入っていません。家来が近くにあった栗の木の小枝を折って渡し、家康公はその栗の枝を箸にしました。食べ終わるとその小枝を地面に突き刺し「もし、わしが天下を取ったら、1年に3度実を結ぶのだ」と強くなりました。その後、この箸を使った栗の木には、1年に3度実がなるという不思議な木になりました。

## まご ぞう 孫三稲荷と家康公 静岡市



家康公が安倍川を家臣たちと越えようとしたのですが、川の流力が強く困っていました。すると一人の男が現れて、家康公一行を無事に対岸まで案内しました。名前を尋ねると「孫三」と答えて再び川を越え戻っていきました。後日、お礼を言おうとしたが、いくら探しても孫三という人物は見当たりません。家臣の一人が、案内してもらった場所にお稲荷さんが祀ってあったので覗いてみると、何と「孫三稲荷」とありました。お稲荷さんの化身が、家康公を助けたに違いないと、以後大切に祀ったといえます。



## 二本杉と弁当野 浜松市天竜区、北区奥山浜北区

佐久間町の河内川のほとりに大杉が二本並んでいます。昔、家康公は信玄勢に追われてこの辺りを逃げていました。お腹が空き、弁当を出して食べ始めましたが、もう敵兵は近くまで来ています。半分ほど食べたところで「ええい、しかたがない」と、箸を地に刺して逃げ出しました。するとその二本の箸が芽を出し、成長して二本の大杉になったといわれています。また、浜北区中瀬に「弁当野」というところがあり、ここも、家康公が弁当を食べたと伝えられています。



スペシャルインタビュー 磯田道史

# 長寿・家康公に学ぶ

静岡の米と自然を愛し、健康主義&エコ生活を実践



「狸親父」「したたか」などと表現をされることもある徳川家康公。

だが、その真の姿はあまり語られていない。

古文書をひも解き、独自の視点で歴史の解釈に新風を吹き込み続ける

静岡文化芸術大学准教授の磯田道史さんが語る家康公とは？

その人物像や静岡との関係性から、新しい家康公像が見えてくる。

芸事が苦手だった家康公  
質素儉約で豊かな老後

「策謀家として語られることの多い徳川家康公ですが、先生が思う家康の人物像についてお聞かせください。

老かいなイメージがあるかもしれませんが家康は、実はとても明るい性格だったようです。家臣たちも家康に対して尊敬の念を抱きながら、非常に親近感を持っていました。もし僕たちがタイムスリップして家康に会えたら、気さくで子どもっぽいその人柄に、拍子抜けする程だと思えますよ。

「名将と呼ばれる家康公の弱点や不得手だったことは？」

能や狂言など、芸事はあまり得意ではありませんでした。豊臣秀吉の家臣時代、秀吉に促されて能を舞った時に「狸が床の

上を飛び跳ねているようだ」とみんなが笑ったそうです。家康は能の稽古に時間を割くくらいなら、鷹狩りをしながら地形観察をし、その合間に村々を回って腕っ節の強そうな若い男子を探して家臣団の強化を図った方が、よほどに実益があると考えていたのです。一時も時間を無駄にせず、常に自分の権力を維持することに全力を注ぐ。それが家康の真骨頂だったと言えます。

「無駄を嫌う家康公。日々の生活も質素だったのでしょうか。」

そうですね。家康は普段から、非常に質素儉約を心がけていました。例えばこんなエピソードが残されています。ある時、駿府城内で奥方たちが「漬け物の味が塩辛い」と台所係への不満を訴えた。事の真相を尋ねる家康に向かつて台所係は「美味しく味付けをすると、女たちはい

くらでも食べます。儉約するためにわざと味を悪くしてあります」と耳元でつぶやいた。すると家康はニヤリと笑ったそうです。また、履き古した足袋を捨てる前に一旦足袋箱に入れて再度分別し、極力リサイクルをしていたという話もあるほど。天下人になつても決して奢ることのない家康の堅実さがよく表れています。

「現代人が学ぶべき点は？」

家康は人生の時間を上手に使った人でした。単に長寿だったというだけではなく、食に大変気を遣い、贅沢をせずに健康な状態で「長生きをした。彼が実践した、老いてからの暮らしぶりには、高齢化社会を生きる私たちが第二の人生を豊かに生きるヒントが詰まっています。「命は食にあり」を座右の銘にしていた家康が普段から麦飯を食べていたことは有名な話ですね。



家康公まめ知識

①【実はとても明るい一面も】

政治の際には勇断を下す家康ですが、実は子どもっぽさやひょうきんな一面も併せ持っていました。家臣たちは会えば楽しい気持ちになっていたようです。すし、外国人の宣教師が家康に会った時の印象を「愉快な容貌を持つ尊敬すべき老人」と書いた記録も残されています。

②【長生きしたかった訳】

家康が長生きしたかったのは、徳川家の繁栄と生き残りを常に考えていたからです。子の秀忠に將軍の座を譲った後、自分が死んでしまったら豊臣家に天下を奪われかねない。若い豊臣秀頼に心を寄せる西国大名が大勢いるという危機感を抱いていたのでしよう。家康は何としても健康に長生きをして、徳川の世を安泰にしてほつとしてから死にたいと思っていたのです。

## 浜松東照宮(引間城跡)は 日本史上最強のパワースポット

―静岡県と言えば、家康公が幼少期から青年期と大御所時代を過ごした地でもあります。家康公が静岡県に与えた影響は大きかったと思われませんか？

家康が駿府に移るまでの17年間、いわば天下人へと駆け上る前の足固めの歳月を過ごしたのが浜松市です。一方で天下を手中に治め、地位を固めつつ

あつた家康が選んだ地が駿府、今の静岡市。この家康が過ごした時期の違いは、静岡県の東西における県民性や文化に影響を与えました。浜松城(当時の引間城)に入城した頃の家康は、武田軍との戦の最中にあり臨戦態勢の荒々しい時期。野を進み、戦場を駆け回る時代ですから、行動的で躍動感溢れる気風を浜松に残しました。その後、出世街道を走り始める家康が浜松を去ってしまったため、ここには数万石の小さな大

名が置かれることになった。家康によつて立派な城下町が築かれた地には、戦の中を生き抜いた勢いのある町民が残され、力のない大名が転勤族として一時統治しているわけですから、民が力を発揮した実利的な町になったと考えることができます。

家康が駿府に移るのは、江戸に幕府を開いた後、將軍職を秀忠に譲つて隠居生活に入る時です。徳川時代の基礎が築かれたつあつた平穩の時代。これからは「馬の上」つまり戦ではなく、文の力で国を治める「文治時代」が訪れるという家康の理念の下で、駿府は戦の拠点ではなく、文教政策の中心地になっていくわけです。このことが、現在の政治都市・静岡市の礎になったと考えられます。

―それでは、なぜ家康公は大御所時代、文治政策の拠点に静岡を選んだのでしょうか。

### 【3】浜松市

29歳から45歳まで17年間、家康は浜松で過ごします。「浜松」という地名は、この時期に家康が付けたもの。浜松時代の家康は、信長の下で腐心し、武田信玄と激突した三方ヶ原の合戦で、生涯最大の敗戦とも言われるほど無残に敗北するなど苦渋の時代を過ごしました。

もっと知るには…

P34  
～  
P39



浜松城

### 【4】静岡市(駿府)

家康は隠居する際、徳川幕府を脅かす者たちをしつかりと抑制し、監視できるようにと駿府を選びます。事実上は江戸と二元政治体制だったため、当時の駿府は政治、経済の中心地として

静岡を選んだ理由は、大きく5つあったと伝えられています。一つは幼少時代を暮らした郷愁の思いがあったこと。そして富士山に抱かれて景色が良いこと。さらに、気候が温暖で老いを養うのに最適な地であること、お米が美味しいことなどを理由に挙げています。そして何より、地形的に要害堅固の地であった点

が大きいようです。東側には箱根の山が控え、富士川、大井川、安倍川など大きな川に守られていたため、軍事上非常に都合が良かった。当時、箱根の山は道幅が狭くしばしば大渋滞を引き起こしていたため、箱根より西に居を構えて西国へ睨みをきかせる意味もあったようです。交通の要衝であったため、参勤交代に向かう大名と会合できることなど、様々な地の利によって家康は駿河を選んだのです。

様々な歴史の舞台となった静岡県ですが、家康公にまつわ

るスポットの中でおすすめめの場所をお聞かせください。

浜松城の隣にある**浜松東照宮**<sup>5</sup>引間城があった場所ですね。

ここはわずか50メートル四方の敷地しかない小さな神社ですが、私は日本史上最強のパワースポットだと思います。実はここ、天下人が二人も訪れている地なのです。最初に訪れたのは豊臣秀吉。『太閤素生記』という記録によると、当時16歳だった秀吉は武家への奉公を望み、針の行商をしながら尾張から浜松までやって来た。そこで引間城の城主であった飯尾豊前守の配下の者が、秀吉の「猿かと思えば人。人かと思えば猿」といった風貌に興味を抱き、見世物にしようと飯尾家一同に秀吉を披露した。するとサービスピス精神旺盛な秀吉は、皮の付いた栗を取り出して猿の真似をしながら口で皮をむいて食べ、その姿に一同が大笑いした。これがきつ

かけとなり秀吉は気に入られ、飯尾家配下の松下家に勤めることになったという逸話が残されています。その後、しばらくして引間城は落城しますが、三河から東進を目指す家康が入城。ここを根城に城を拡張し、城の名を浜松城と改め、遠江一帯を平定する侵略の拠点としました。秀吉と家康、二人の天下人

にとつて人生の転機となった浜松市中区元城町1-1-1、つまり現在の浜松東照宮の地は日本最強の出世スポットであると言えるでしょう。

いそだ みちふみ

岡山県出身、浜松市在住。2002年慶應義塾大学大学院文学研究科修了、2012年より静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学准教授に就任。古文書に隠された様々な歴史のエピソードから独特の視点で研究・分析を続け、これまで未開であった分野にも新たな角度から切り込み、歴史をひも解く。江戸時代の武士社会の表情を記した『武士の家計簿(新潮新書)』をはじめ、『殿様の通信簿(新潮社)』、『近世大名家臣団の社会構造(東京大学出版会)』など著書、論文を多数発表。

大いに繁栄。現在の政治都市・静岡市の礎が築かれました。

もつと知るには……

P18〜P31



駿府のまちを望む

【5】浜松東照宮(引間城跡)

三河から東進した家康は、遠江一帯を支配するため、引間城本丸(現在の浜松東照宮がある場所)に入ります。わずか50m四方の狭い空間で寝起きをしながら城を拡張。浜松城と改名した後、ここを拠点に甲斐、信濃へと領土を拡大しました。まさに、徳川家康の飛躍の地とも言える場所なのです。

もつと知るには……

P34〜P35

# ふじのくにに名物いろいろ

## 【大福寺納豆・浜納豆】

### 浜松市

大福寺納豆は、浜名湖北にある大福寺(浜松市)で製造されており、家康公も献上の頃になると待ちわびていたとか。大豆を発酵、味付したのち乾燥させて香料を加えた保存食で、独特の風味がクセになる。その後、「浜納豆」として遠州各地に伝わった。浜松市内のお土産屋で手に入る。



## 【とろろ汁】静岡市

家康公が好んで食したといわれるとろろ。同じく、家康公が健康食として好んだ麦飯。麦飯にとろろ汁をかけた「とろろ飯」が今も東海道の丸子宿(まりこしゅく)の名物として伝わっている。



## 【酒】静岡県各地

戦国時代から江戸時代の初めにかけて江川家で造られた「江川酒」は、北条早雲や徳川家康公に献上されていた。家康公はその美味しさを賞し、井桁(いげた)に菊の由来となる野菊の紋を与えられたと伝えられている。近年、この江川酒が地元の有志によって復活し、味わえるようになった。このほか、静岡各地には歴史ある酒蔵も多い。



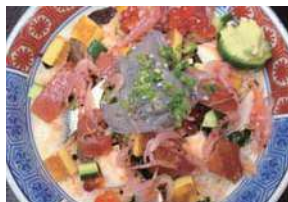
6月の田植えの様子

しぞ〜か

## 【静岡ちらし】静岡県各地

家康公が三河から教え伝え、向井水軍が伊勢から持ち帰ったとされる混ぜ寿司をイメージして作られた。駿河湾、近海の旬の海の幸がたっぷり載った「静岡(しぞ〜か)ちらし」は、ご当地グルメとして人気だとか。県内各地のすし屋で食べられる。

●お問い合わせ  
☎054-255-7148(静岡すし組合)



美味  
なるもの



## 【折戸なす】<sup>おりど</sup>静岡市清水区

折戸なすは、徳川家康が愛したナス。「一富士、二鷹、三茄子」の茄子という説もあるほど。しばらく途絶えていたものの、近年、静岡市清水区三保・折戸地区で復活、栽培されるようになった。5月中旬~12月頃に、地元の大手スーパーで購入できる。

●お問い合わせ  
☎054-367-3200(JALみず)

# 海、山、里の名物と、美しい風景、名所もいっぱい 家康公もお気に入り?



すんぶ たくみしゆく

## 【駿府匠宿】静岡市

今川、徳川時代から受継がれた静岡市の伝統産業と歴史をテーマに、静岡ならではの生活文化を体験できる施設。「漆器」「和染」「竹細工」などの製作体験ができる。



●お問い合わせ  
静岡市駿河区丸子3240-1  
☎054-256-1521  
開場時間/9:00~17:00  
(各体験工房のお申込みは16:00まで)  
休場日/年末年始(12/30~1/1)

## 【焼津弓道具】焼津市

今川時代、甲斐武田氏の家臣が静岡に転居して矢師を始めたことされる。その後、この一帯は徳川幕府の直轄地となり、幕府は平民にも弓を持たせ、時折神社などに人々を集め競いあわせ、天下の大事に備えていたという。



# なるもの 匠

しずはた やき

## 【賤機焼】静岡市

三方ヶ原の合戦の後、太田七郎右衛門という人物が、家康公の無事と勝利を祝い外は鬼、内に福を模した盃を献上したところ、家康公は大いに喜び、賤機焼の称号を与えたことが始まり。



しとろ やき

## 【志戸呂焼】静岡県島田市

1588年(天正16)、家康公が遠州志戸呂(現在の島田市志戸呂)に住んでいた陶工たちに焼物免許の朱印状を発給している。今も、志戸呂焼を伝承する窯元がある。



## 【安倍川餅】静岡市

駿府城にいた大御所時代の家康公に献上され、その美味しさを気に入り、安倍川上流部にあった金山にちなんで『安倍川餅』と命名したと伝えられている。今も静岡のお土産として人気だ。



## 【お茶】静岡県各地

静岡県の代表的な名物の一つで、家康公も愛飲したという。栽培される地域によって味わいも異なる。牧之原台地のお茶畑に囲まれて建つ「お茶の郷(さと)博物館」なら、お茶の文化歴史を学ぶことができる。

●お問い合わせ  
【お茶の郷 博物館】  
島田市金谷富士見町3053-2  
☎0547-46-5588  
開館時間/博物館・庭園 9:00~17:00  
(入館は16:30)  
休館日/毎週火曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始(12/29~1/1)





海、山、里の名物と、美しい風景、名所もいっぱい

## 家康公もお気に入り? ふじのくに名物いろいろ

### 【富士山】

横に長い静岡県各地からは、四季折々、様々な表情の富士山を望める。家康公も愛でたであろう、富士山の景色を、家康公をめぐるこの旅で満喫しよう。



柿田川と富士(清水町)



戸田の御浜岬(沼津市)

### 【川】

静岡県には、天竜川、大井川、安倍川、富士川、狩野川という大きな川がある。家康公もこれらの川を一生の間何度も渡ったに違いない。



大井川河口の野鳥園(焼津市)

### 【浜名湖】

家康公が浜松在城の折に、浜名湖ではコイ、フナを献上し、入出のあたりを御浦と称したという。



奥浜名湖の夕景(浜松市)

### 【城と桜】

四季折々に美しい城。とくに桜の季節は多くの人でにぎわう。桜と城を愛でにぜひ出かけてみよう。



浜松城の春(浜松市)



駿府城公園の桜(静岡市)

### 【温泉】

家康公のお気に入りという熱海の温泉のほかにも、温泉地が点在している。疲れを癒し、眺めもよい温泉で旅をますます楽しくしよう。



川根温泉ふれあいの泉(島田市)

### 【東海道の宿場風情】

徳川家康公が全国支配のために整備した五街道のうち、東海道は大動脈として発展した。東海道の53の宿場のうち22の宿場が静岡県にあり、宿場や街道の風情を楽しめる。



金谷の石畳(島田市)

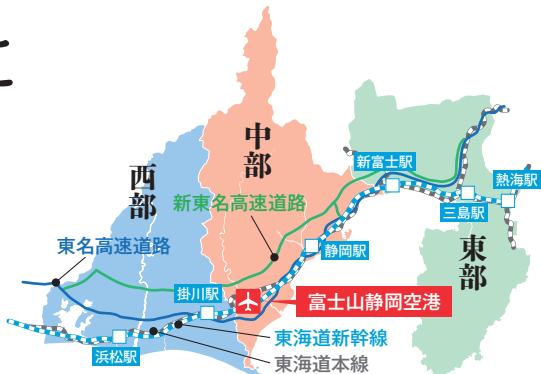
# 美景

なるもの

# ふじのくに 便利帳

静岡県の観光情報は  
「ハローナビしずおか」で検索  
<http://hellonavi.jp/>

静岡県観光協会  
電話 054-202-5595



## 観光案内データ

お問い合わせは各市町観光担当課・観光協会へ

### 伊豆地区

熱海市観光課	☎0557-86-6195
熱海市観光協会	☎0557-85-2222
伊東市観光課	☎0557-36-0111
伊東観光協会	☎0557-37-6105
東伊豆町観光課	☎0557-95-6301
東伊豆町観光協会	☎0557-95-0700
河津町産業振興課	☎0558-34-1946
河津町観光協会	☎0558-32-0290
下田市観光課	☎0558-22-3913
下田市観光協会	☎0558-22-1531
南伊豆町産業観光課	☎0558-62-6300
南伊豆町観光協会	☎0558-62-0141
三島市役所商工観光課	☎055-983-2656
三島市観光協会	☎055-971-5000
函南町農林商工課	☎055-979-8113
函南町観光協会	☎055-978-9191
伊豆の国市観光商工課	☎055-948-1480
伊豆の国市観光協会	☎055-948-0304
伊豆市観光交流課	☎0558-72-9911
伊豆市観光協会	☎0558-85-1883
伊豆市観光協会修善寺支部	☎0558-72-2501
伊豆市観光協会中伊豆支部	☎0558-83-2636
伊豆市観光協会天城支部	☎0558-85-1056
伊豆市観光協会土肥支部	☎0558-98-1212
沼津市産業振興部観光交流課	☎055-934-4747
沼津観光協会	☎055-964-1300
戸田観光協会	☎0558-94-3115
西伊豆町観光商工課	☎0558-52-1114
西伊豆町観光協会自然観光案内所	☎0558-52-1268
西伊豆町観光協会宇久須観光案内所	☎0558-55-0412
松崎町企画観光課	☎0558-42-3964
松崎町観光協会	☎0558-42-0745

### 富士地区

清水町地域振興課(観光協会)	☎055-981-8238
長泉町産業振興課	☎055-989-5516
ながいずみ観光交流協会	☎055-988-8780
裾野市商工観光課	☎055-995-1825
裾野市観光協会	☎055-992-5005
御殿場市商工観光課	☎0550-82-4622
御殿場市観光協会	☎0550-83-4770
小山町商工観光課	☎0550-76-6114
小山町観光協会	☎0550-76-5000
富士市観光課	☎0545-55-2777
富士山観光交流ビューロー	☎0545-64-3776
富士宮市観光課	☎0544-22-1155
富士宮市観光協会	☎0544-27-5240

### 中部地区

静岡市観光・シティプロモーション課	☎054-354-2422
静岡観光コンベンション協会	☎054-251-5880
静岡観光コンベンション協会清水事務所	☎054-388-9181
焼津市観光課	☎054-626-2155
焼津市観光協会	☎054-626-6266
藤枝市商業観光課	☎054-643-3111
藤枝市観光協会	☎054-645-2500
岡部総合案内所	☎054-667-6060
島田市観光課	☎0547-36-7163
島田市観光協会	☎0547-46-2844
島田市観光協会川根支所	☎0547-53-2220
川根本町商工観光課	☎0547-58-7077
川根本町まちづくり観光協会	☎0547-59-2746
吉田町産業課(観光協会)	☎0548-33-2122
牧之原市観光空港課	☎0548-53-2623
牧之原市観光協会	☎0548-22-5600

### 西部地区

御前崎市商工観光課	☎0537-85-1135
御前崎市観光協会	☎0548-63-2001
菊川市商工観光課	☎0537-35-0936
菊川市観光協会	☎0537-36-0201
掛川市商工観光課	☎0537-21-1149
掛川観光協会ビジターセンター	☎0537-24-8711
袋井市産業振興課	☎0538-44-3156
袋井市観光協会	☎0538-43-1006
森町産業課(観光協会)	☎0538-85-6319
磐田市商工観光課	☎0538-37-4819
磐田市観光協会	☎0538-33-1222
浜松市観光交流課	☎053-457-2295
浜松観光コンベンションビューロー	☎053-458-0011
浜松市観光インフォメーションセンター	☎053-452-1634
かんざんじ温泉観光協会	☎053-487-0152
浜北観光協会	☎053-585-1116
天竜観光協会	☎053-925-5845
舞阪町観光協会	☎053-592-0757
雄踏観光協会	☎053-596-1780
奥浜名湖観光協会	☎053-522-4720
三ヶ日町観光協会	☎053-524-1124
春野観光協会	☎053-989-0182
浜松市佐久間観光協会	☎053-965-1651
水窪観光協会	☎053-987-0432
龍山観光協会	☎053-966-2111
湖西市商工観光課	☎053-576-1230
新居町観光協会	☎053-594-0634

参考文献:「江戸幕府を開いた将軍 徳川家康」小学館(責任監修小和田哲男氏)、小和田哲男氏著「詳細図説家康記」新人物往来社、静岡人「国宝 久能山東照宮」、磯田道史氏著「歴史の楽しみ方」中公新書、「徳川家康公と駿府」静岡商工会議所、小和田哲男氏著「駿府の大御所 徳川家康」静岡新聞社、「地球日本史」扶桑社文庫、静岡新聞社「ふるさと百話」

本誌に掲載したデータは、平成25年3月現在のものです。



---

## 徳川家康公顕彰誘客プロジェクト事業

静岡県文化・観光部 観光振興課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 電話番号 054-221-3637